

五 主務官廳ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

六 正當ノ理由ナクシテ本令ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ閱覽セシメ

ス又ハ其謄本若クハ抄本ヲ交付セザリシトキ

第十五條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

第十六條 保險業法第一條、第三條、第四條、第七條、第九條乃至第十一條及

ヒ第九十七條ノ規定ハ外國會社ニ之ヲ準用ス

第十七條 商法第九條、第十一條乃至第十五條、第十九條乃至第三十八條、第

四十條、第四十一條、第二百五十五條乃至第二百五十八條及ヒ保險業法第八

十五條、第八十六條、第九十條、第九十一條ノ規定ハ外國相互會社ニ之ヲ準

用ス

第十八條 各登記所ニ外國相互保險會社登記簿ヲ備フ

第十九條 外國相互會社カ日本ニ事務所ヲ設ケタル場合ニ於テ其登記ヲ申請ス

ルトキハ會社ノ代表者ハ申請書ニ其日本ニ於ケル事業ノ本據及ヒ代表者ノ氏名、住所ヲ記載シ且之ニ左ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

一 主タル事務所ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面

二 代表者タル資格ヲ證スル書面

三 社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面

四 日本ニ於ケル社員ノ名簿

五 主務官廳ノ免許書又ハ其認證アル謄本

前項第一號乃至第三號ノ書面ハ會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第二十條 外國相互會社ノ代表者カ支配人ノ選任ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ

ハ申請書ニ其日本ニ於ケル事務所設立ノ登記ノ年月日ヲ記載シ且之ニ支配人

ノ選任ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十一條 非訟事件手續法第三百二十九條、第四百十一條乃至第四百十九條、第

第二類 外國保險會社ニ關スル件(勅令)

百五十一條、第百五十四條乃至第百六十五條、第百七十三條第一項、第百七十四條第二項、第百七十三條及第百七十四條ノ規定ハ外國相互會社ニ之ヲ準用ス
第二十二條 第一條乃至第六條、第八條乃至第十一條及第十三條乃至第十六條ノ規定ハ外國人カ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム場合ニ之ヲ準用ス

附則

第二十三條 本令ハ明治三十三年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス
第二十四條 本令施行前ニ日本ニ支店、事務所又ハ代理店ヲ設ケタル外國人又ハ外國會社ハ其施行ノ日ヨリ六箇月内ニ其日本ニ於ケル事業ノ本據ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス
第二十五條 第四條乃至第十五條、第十七條、第二十條、保險業法第一條、第三條、第四條、第九條乃至第十一條、第九十七條及ヒ非訟事件手續法第百七

十三條第一項、第百七十四條第二項ノ規定ハ本令施行前ニ日本ニ支店、事務所又ハ代理店ヲ設ケタル外國人又ハ外國會社ニ之ヲ準用ス

●外國保險會社ニ關スル件

(明治三十三年十月一日)
農商務省令第十九號

外國保險會社ニ關スル件左ノ通相定ム

外國保險會社ニ關スル件

第一條 外國會社ノ保險事業ノ免許ノ申請ハ代表者ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス
申請書ニハ明治三十三年勅令第三百八十號第三條ニ掲ケタル書類ノ外本店又ハ主タル事務所ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面ヲ添附スルコトヲ要ス
第二條 外國會社カ明治三十三年勅令第三百八十號第三條第一項第一號乃至第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル書類ノ變更ノ認可申請ヲ爲スニハ申請書ニ理由書ヲ添附スルコトヲ要ス

第二類 外國保險會社ニ關スル件(省令)

第三條 外國會社カ商法又ハ明治三十三年勅令第三百八十號ノ規定ニ依リ登記
ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク登記シタル事項及ヒ其登記ノ年月日ヲ農商務大臣
ニ届出ツルコトヲ要ス但社員名簿ニ爲シタル記載ハ此限ニ在ラス

第四條 外國會社カ解散、合併又ハ組織變更ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ
農商務大臣ニ届出ツルコトヲ要ス

第五條 明治三十三年農商務省令第十五號第六條乃至第八條、第十條及ヒ第十
四條乃至第二十一條ノ規定ハ外國會社ノ日本ニ於ケル事業ニ之ヲ準用ス

第六條 明治三十三年農商務省令第十五號第二十四條乃至第二十六條ノ規定ハ
外國會社ニ之ヲ準用ス

第七條 前五條ノ規定ハ本令施行前ニ免許ヲ受ケタル外國會社ニ之ヲ準用ス但
本令施行ノ日ヨリ一年間ハ明治三十三年農商務省令第十五號第八條ノ規定ニ
依ラサルコトヲ得

附則

第八條 本令ハ明治三十三年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●相互保險會社登記取扱手續

(明治三十三年六月三十日
司法省令第十八號)

相互保險會社登記取扱手續左ノ通相定ム

相互保險會社登記取扱手續

第一條 相互保險會社登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調
製スヘシ

外國相互保險會社登記簿ハ附錄第一號雛形ニ準シ之ヲ調製スヘシ(三十三年
司法省令第三十五號ヲ以テ本項追加)

第二條 相互保險會社登記見出帳ハ附錄第二號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ
外國相互保險會社登記見出帳ハ附錄第二號雛形ニ準シ之ヲ調製スヘシ(同
上)

第三條 相互保險會社社員登記簿ハ附錄第三號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之
第二類 相互保險會社登記取扱手續

ヲ調製スヘシ

外國相互保險會社社員登記簿ハ附錄第三號雛形ニ準シ之ヲ調製スヘシ(同上)

第四條 登記所ニハ登記簿、社員名簿、見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フ

(一)三十三年司法省令第三十五號及三十五年司法省令第十八號ヲ以テ本條中改

正)

一 謄本抄本證明書交付帳

二 相互保險會社登記申請書囑託書附屬書類送込帳

三 外國相互保險會社登記申請書通知書届書附屬書類送込帳

四 受領證原符元帳

五 決定原本送込帳

六 登記簿謄本送込帳

七 登記済證交付帳

八 抗告書類送込帳

九 印鑑簿

第四條ノ二 前條第一號乃至第八號ノ帳簿ハ一ヶ年毎ニ別冊ト爲スヘシ(三十

五年司法省令第十八號ヲ以テ追加)

第五條 相互會社ノ設立ノ登記ノ申請書ニハ設立ノ年月日ヲ記載スヘシ

外國相互保險會社ノ登記ノ申請書ニ添附スヘキ書類カ外國語ヲ以テ記載シタ

ルモノナルトキハ申請人ハ之ニ其譯文ヲ添附スヘシ(三十三年司法省令第三

十五號ヲ以テ本項追加)

第六條 登記所ニ差出スヘキ社員名簿ノ表紙ハ厚紙ヲ用井表面ニ(何々相互會

社)社員名簿ト記載シ裏面ニ其枚數ヲ記載シ申請人記名捺印スヘシ

社員名簿ノ用紙ニハ丁數ヲ記入シ且毎葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ取締役又ハ監査役カ多數ナルトキハ各一人ヲ記名捺印又

ハ契印ヲ以テ足ル

第七條 社員名簿カ二冊以上ナルトキハ申請人ハ各冊ノ表紙ニ其冊數ヲ記載ス

第二類 相互保險會社登記取扱手續

第八條 社員名簿ノ記載ノ變更ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其申請書ニ變更シタル事項ノ記載アル用紙ヲ編綴セル社員名簿ノ冊數及ヒ丁數ヲ記載スヘシ

第九條 相互會社ノ設立ノ年月日ハ登記用紙中豫備欄ニ之ヲ記載スヘシ

第十條 登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ社員名簿ノ表紙ニ登記番號、受附ノ年月日、受附番號及ヒ登記所ノ名稱ヲ記載スヘシ

第十一條 社員名簿ノ記載ノ變更ノ申請アリタルトキハ社員登記簿ノ登記用紙中番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ變更シタル事項ノ記載アル社員名簿ノ冊數及ヒ丁數ヲ記載シ相當欄ニ保險業法第四十九條ノ規定ニ依リ社員名簿ニ記載シタル事項ヲ移シタル上變更欄ニ其登記ヲ爲スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ社員名簿中相當部分ノ餘白ニ社員登記簿第何冊第何丁ニ移シタル旨及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

第十二條 社員ノ入社ニ因リ社員名簿ノ記載ノ變更ノ申請アリタルトキハ社員登記簿ノ登記用紙中番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ相當欄ニ保險業法第四十九條ニ掲ケタル事項ヲ登記スヘシ

第十三條 社員ノ退社ニ因リ社員名簿ノ記載ノ變更ノ申請アリタルトキハ社員名簿中相當部分ノ餘白ニ其登記ヲ爲シ退社シタル社員ノ氏名ヲ朱抹スヘシ

若シ其社員カ社員登記簿ニ登記セラレタル者ナルトキハ社員登記簿ノ登記用紙中變更欄ニ退社ノ登記ヲ爲シ登記番號及ヒ其社員ノ氏名ヲ朱抹スヘシ

第十四條 社員登記簿ノ登記用紙中或欄カ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新ニ番號欄ニ前番號ヲ轉寫シ其左側ニ第二ノ文字、前番號ノ用紙ヲ編綴セル社員登記簿ノ冊數、丁數及ヒ其繼續用紙ナルコトヲ記載シ社員ノ氏名、住所欄ニ社員ノ氏名、住所ヲ移シタル上登記ヲ爲スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ前用紙ノ番號ノ左側ニ第一ノ文字竝ニ繼續用紙第二類 相互保險會社登記取扱手續 四百四十一

ヲ編綴セル社員登記簿ノ冊數、丁數及ヒ之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ
前二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 不動産登記法施行細則第四條、第五條、第十二條、第二十條乃至第
二十四條、第二十七條、第三十三條乃至第三十九條、第四十七條、第五十一
條及ヒ商業登記取扱手續第五條乃至第七條、第九條乃至第二十條、第二十一
條第一項、第三項、第二十三條乃至第三十三條、第四十四條乃至第四十六條、
第四十七條第二項、第四十八條ノ規定ハ相互保險會社ノ登記ニ之ヲ準用ス(三
十三年司法省令第三十五號ヲ以テ本條中改正)

附則

受附番號ハ明治三十三年分ニ限リ七月一日ニ始メ十二月三十一日ニ止ムヘシ
(附錄雛形略ス)

●相互保險會社登記簿謄本抄本等ノ手数料

(明治三十三年六月三十日
司法省令第十九號)

相互保險會社登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ノ請求等ニ關スル手数料ニ付テハ明
治三十二年司法省令第十四號第一條及ヒ第三條乃至第六條ノ規定ヲ準用ス

●外國相互保險會社登記簿謄本抄本等ノ手数料

(明治三十三年九月二十七日
司法省令第三十六號)

外國相互保險會社登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ノ請求等ニ關スル手数料ニ付テ
ハ明治三十二年司法省令第十四號第一條及ヒ第三條乃至第六條ノ規定ヲ準用ス

●相互保險會社登記事務取扱所

○司法省令 明治三十三年七月十四日 相互保險會社ニ關スル登記ノ事務ハ
第二類 第一一三號

相互保險會社登記簿謄本抄本等ノ手数料 四百四十三
外國相互保險會社登記簿謄本抄本等ノ手
數料 相互保險會社登記取扱所

商業登記ヲ取扱フ登記所ニ於テノミ之ヲ取扱ハシム

○司法省令 明治三十三年十月六日 外國相互保險會社ニ關スル登記ノ事務

ハ商業登記ヲ取扱フ登記所ニ於テノミ之ヲ取扱フ

●銀行

●銀行條例 (明治二十三年八月二十三日) 法律第七十二號

朕銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

銀行條例

第一條 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲替事業ヲ爲シ又ハ諸預リ及貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用井ルニ拘ラス總テ銀行トス

第二條 銀行ノ事業ヲ營マントスル者ハ其資本金額ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ

大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

銀行ノ事業ヲ營ム會社ニシテ合併セントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ (三十三年法律第五號ヲ以テ本項追加)

第三條 銀行ハ每半箇年營業ノ報告書ヲ製シ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四條 銀行ハ每半箇年貸借對照表ヲ製シ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ (三十三年法律第五號ヲ以テ本條中財産目錄ヲ削ル)

第五條 銀行ノ登記スヘキ事項ニシテ大藏大臣ノ認可ヲ要スルモノアルトキハ其認可書ノ到達シタル日ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス (同上法律ヲ以テ追加)

第六條 銀行ノ營業時間ハ午前第九時ヨリ午後第三時迄トス

但營業ノ都合ニヨリ之ヲ增加スルコトヲ得 (二十八年法律第一號ヲ以テ改正)

第七條 銀行ノ休日ハ大祭日、祝日、日曜日及銀行營業地ニ行ハルル定例ノ休

第二類 銀行條例

日トス但止ヲ得サル事故アルトキハ地方長官ニ届出テ豫メ新聞紙其他ノ方法
ヲ以テ公告シタル上休業スルコトヲ得

第八條 大藏大臣ハ何時タリトモ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ銀行ノ業務
ノ實況及財産ノ現況ヲ検査セシムルコトヲ得

第九條 第二條ノ規定ニ違反シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ銀行ノ事業ヲ營
タルトキハ其營業主、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表
者ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス(三十二年法律第五十二號ヲ以テ改
正)

第十條 銀行ニ於テ第三條ノ報告者ハ第四條ノ公告ヲ爲サス又ハ其報告中若ハ
公告中ニ詐偽ノ陳述ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ其營業主、會社ノ業
務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者ヲ五圓以上五百圓以下ノ過料
ニ處ス(同上)

第八條ノ検査ヲ受クルコトヲ拒ミタルトキハ其營業主、會社ノ業務ヲ執行ス

ル社員、取締役、外國會社ノ代表者ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十一條 此條例ハ日本銀行橫濱正金銀行國立銀行ニ適用セス

●銀行條例施行細則

(明治三十二年六月八日
大藏省令第二十四號)

銀行條例施行細則左ノ通相定ム

銀行條例施行細則

第一條 各人ニシテ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ左ノ事項ヲ記載シタル認
可申請書ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ

一 商號

二 本店及支店ノ所在地

三 資本金額

第二條 會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ合名會社若ハ合資會社ニ
在テハ各社員又ハ業務執行社員株式會社若ハ株式合資會社ニ在テハ取締役又

第二類 銀行條例施行細則

ハ業務執行社員ノ署名シタル認可申請書ニ定款及ヒ株式申込證謄本ヲ添ヘ大藏大臣ニ差出スヘシ(三十三年大藏省令第三號ヲ以テ改正)

第三條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケ銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル認可申請書ニ會社定款ヲ添ヘ支店ノ代表者ヨリ大藏大臣ニ差出スヘシ

- 一 支店ノ商號
- 二 支店ノ所在地
- 三 支店資本金ヲ定メタルトキハ其金額

第四條 合資會社カ其組織ヲ變更シテ合名會社ト爲シタルトキハ貸借對照表及ヒ定款ヲ添ヘ大藏大臣ニ届出ツヘシ(三十三年大藏省令第三號ヲ以テ本條中財産目錄ノ四字ヲ削除ス)

第五條 株式合資會社カ其組織ヲ變更シテ株式會社ト爲シタルトキハ組織變更ニ關スル決議書貸借對照表及ヒ定款ヲ添ヘ大藏大臣ニ届出ツヘシ(同上)

第六條 商法暫行前ニ設立シタル合資會社カ其組織ヲ變更シテ商法ニ定メタル合資會社株式會社又ハ株式合資會社ト爲シタルトキハ組織變更ニ關スル決議書貸借對照表及ヒ定款ヲ添ヘ大藏大臣ニ届出ツヘシ(同上)

第七條 銀行事業ヲ營ム會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ商法第七十八條ノ手續ヲ了シタル後會社各自ノ取締役又ハ業務執行社員ノ連署シタル認可申請書ニ左ノ書類ヲ添ヘ大藏大臣ニ差出スヘシ(同上省令ヲ以テ改正)

- 一 總會ノ決議錄
- 二 合併ニ關スル契約書
- 三 合併ニ依リ存續スル會社又ハ合併ニ依リ新ニ設立スル會社ノ定款
- 四 會社各自ノ貸借對照表

會社カ商法第八十一條ノ手續ヲ了シタルトキハ第十二條ノ届出ト同時ニ合併ニ依リ消滅シタル會社ノ認可書ヲ還納スヘシ

第八條 第一條第三條ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ速ニ大藏大臣ニ
第二類 銀行條例施行細則
四百四十九

届出ツヘシ

第九條 銀行カ定款ヲ變更シタルトキハ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十條 銀行條例第三條及ヒ第四條ノ半箇年ハ毎年一月ヨリ六月迄及ヒ七月ヨリ十二月迄トシ之ヲ銀行ノ事業年度トス

第十一條 銀行條例第三條ノ營業報告ハ附屬雛形ニ準シテ調製シ每營業年度經過後一箇月以内ニ大藏大臣ニ發送スヘシ但遠隔ノ地ニ支店ヲ有シ又ハ已ムヲ得サル事由アリテ本條ノ期間内ニ報告書ヲ發送スルコト能ハサルトキハ豫メ期日ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 (三十四年大藏省令第二十六號ヲ以テ削除)

第十三條 銀行カ營業ヲ開始スルトキハ其年月日ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十四條 銀行ノ事業ヲ營ムモノ營業ヲ廢止スルカ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ解散シタルトキハ地方長官ハ其事由ヲ具シ速ニ大藏大臣ニ報告スヘシ

第十五條 銀行ヨリ大藏大臣ニ提出スヘキ書類ハ總テ地方長官ヲ經由スルヲ要ス

ス

附則

第十六條 本省令ハ明治三十二年六月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 明治二十六年(五月)大藏省令第七號銀行條例施行細則ハ本省令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(第二號乃至第十一號書式略ス)(三十三年大藏省令第三號ヲ以テ附屬雛形中「財產目錄」「第六號」「第十一號」雛形及ヒ第一號雛形中「資本金ノ項」而シテ「以下二十字及ヒ」株主姓名表」ヲ削除ス)

貯蓄銀行條例

(明治二十三年八月二十二日法律第七十三號)

朕貯蓄銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

貯蓄銀行條例

第二類 貯蓄銀行條例

第一條 複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トス
銀行ニ於テ新ニ一口五圓未満ノ金額ヲ定期預リ若ハ當座預リトシテ引受ルト
キハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ム者ト爲シ此條例ニ依ラシム
第二條 資本金三萬圓以上ノ株式會社ニアラサレハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ムコトヲ
得ス

第三條 貯蓄銀行ノ取締役ハ銀行ノ業務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノトス
但其責任ハ退任後一箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第四條 貯蓄銀行ハ貯蓄拂戻ノ保證トシテ資本金ノ半額ヨリ少カラサル金額
ヲ利付國債證券ニテ備ヘ置キ之ヲ供託所ニ預ケ入ルヘシ

第五條 貯蓄銀行ハ左ニ掲クル事項ノ外其資金ヲ運轉スルコトヲ得ス
第一 貸付

第二 證券ノ割引
第三 國債證券及地方債證券ノ買入

第六條 貯蓄銀行ニ於テ前條ニ依リ貸付ヲ爲スハ其期限六箇月以内ニシテ國債
證券地方債證券ヲ質ト爲シタル場合ニ限ル其割引ヲ爲スハ支拂資力ニ付疑フ
ヘキ理由ノ存セサル者二名以上ノ裏書アル爲替手形約束手形ニ限ルヘシ

貯蓄銀行ハ國債證券及地方債證券ノ定期賣買ヲ爲スコトヲ得ス
第七條 貯蓄銀行ニ於テ其定款ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大
藏大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第八條 銀行ニシテ貯蓄銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ
大藏大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第九條 貯蓄銀行ニシテ此條例ノ規定ニ違反シタルトキハ其取締役ヲ五十圓以
上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

貯蓄銀行ニアラスシテ貯蓄銀行ノ業ヲ營ミタルトキハ營業主又ハ會社ノ業務
擔當社員若ハ取締役ヲ前項ノ罰ニ處ス

第十條 此條例ニ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ銀行條例ニ依ル
第二類 貯蓄銀行條例

●貯蓄銀行條例施行細則

(明治二十八年三月二十八日) 大藏省令第一號

明治二十六年大藏省令第八號貯蓄銀行條例施行細則左ノ通改正ス

貯蓄銀行條例施行細則

第一條 貯蓄銀行條例第四條ノ利付國債證券、地方債證券、商業手形、會社ノ債券又ハ株券ハ明治二十六年大藏省令第二十一號供託物取扱規程第二條ノ手續ニ依リ之ヲ本店所在地ノ供託所ニ預ケ入ルヘシ

第二條 諸證券ノ擔保價格ハ每半箇年末日ノ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三條 第一條ニ依リ證券供託ノ手續ヲ了シタルトキハ供託所受領證ノ寫ヲ添付シ每半箇年末日ヨリ三十日以内ニ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ届出ツヘシ

臨時ニ供託ヲ爲シタル場合ニ於テハ其都度直ニ前項ニ依リ届出ヲ爲スヘシ

第四條 既ニ供託シタル證券ノ全部又ハ一部ノ返戻ヲ要スルトキハ其事由ヲ具

シ返戻ヲ求メントスル證券ノ種類、記號、番號、券面ノ金額、枚數及ヒ擔保金額ヲ記載シテ地方長官ニ出願シ其承認ノ證據ヲ提出シ供託物取扱規程第十條ノ手續ニ依リ供託所ニ請求スヘシ

地方長官ハ前項ノ承認ヲ與ヘタルトキハ直ニ書類ノ寫ヲ添付シ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第五條 大藏大臣ハ會社ノ債券又ハ株券等ニシテ貯蓄預金ノ擔保ニ供スヘカラサルモノト認ムルトキハ其供託ヲ制止スルコトアルヘシ

第六條 供託諸證券ハ其銀行ノ所有ニ屬シ記名アルモノニ限ル

第七條 貯蓄銀行ノ營業報告書ハ附屬雛形ニ準シ調製スヘシ

第八條 本規則ニ規定セサルモノハ總テ銀行條例施行細則ニ依ル

(雛形略ス)

●日本銀行條例

(明治十五年六月二十日) 第三十二號布告

第二類 貯蓄銀行條例施行細則

日本銀行條例

四百五十五

日本銀行條例左ノ通制定ス

日本銀行條例

第一條 日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條 日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスボンダンス」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスボンダンス」ヲ締約スルトキハ其事由ヲ大藏卿ニ具狀シテ其許可ヲ受クヘシ又大藏卿ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスル時ハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三條 日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三十年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得

第四條 日本銀行ノ資本金ハ一千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ一株二百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増加ヲ請願スルコトヲ得

第五條 日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サス

第六條 日本銀行ノ株主トナラントスルモノハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 資本金總額五分ノ一即チ貳百萬圓ノ入金アル時ハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムル者トス

第八條 營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ内幾分ヲ減少シタル時ハ其事由ヲ審明シ資本入金殘額ヨリ其欠額ニ充ル迄ノ金額ヲ追募スヘシ

第九條 事業ノ伸張ニ由リ資本入金ノ増加ヲ要スル時ハ之ヲ資本入金殘額ヨリ追募スヘシ

第十條 純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クトモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フ

第二 割賦金ノ不足ヲ補フ

第二類 日本銀行條例

第十二條 日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事

第二 地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

第三 金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第四 豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲ爲ス事

第五 諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬並諸證券類ノ保護預リヲ爲ス事

第六 公債證書政府發行ノ手形其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事但其金額及利子ノ割合ハ總裁副總裁理事

監事ニ於テ時々決議シ大藏卿ノ許可ヲ受ケヘシ

第十二條 日本銀行ハ第十一條ニ記載スル事業ノ外左ニ掲ケル件々ハ勿論其他諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得ス

第一 不動産及ヒ銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第二 本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲ス事

第三 諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル事

第四 本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動産ノ所有主タル事

第十三條 政府ノ都合ニ依リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヒニ從事セシムヘシ

第十四條 日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但此銀行券ヲ發行セシムル時ハ別段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スル者トス

第十五條 日本銀行ハ諸手形及切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第十六條 日本銀行ハ公債證書ヲ買入又ハ之ヲ賣拂フコトヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ大藏卿ノ許可ヲ受ケヘキモノトス

第十七條 日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スル者トス此外
第二類 日本銀行條例 四百五十九

ニ監事三人乃至五人ヲ置クヘシ

第十八條 總裁副總裁ハ任期五ケ年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トシ但任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

第十九條 理事ハ株主總會ニ於テ選舉シ大藏大臣之ヲ命シ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選舉ス

理事ノ任期ハ四年トシ監事ノ任期ハ三年トス

理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス(二十三年法律第六十一號ヲ以テ本條改正)

第二十條 總裁ハ每半期ニ通常株主總會ヲ招集ス

總裁ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ必要ト認ムルトキハ臨時株主總會ヲ招集ス總裁ハ監事ノ全員又ハ株主總會ノ會員タル者五十名以上ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ請求スルトキハ臨時株主總會ヲ招集セサルコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ開會ノ六十日前ヨリ引續キ十株以上ヲ所有スル者ニ限ル

株主總會ニ於テハ會員ニ代理ヲ委託スルノ外他人ヲ以テ代理人トナスコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ株數十箇ニ付投票一箇ノ權利ヲ有ス十一株以上ハ五十株毎ニ一箇ノ投票權ヲ增加ス但他人ノ代理委託ヲ受クル者ハ其代理ニ屬スル權利ハ十箇以上ヲ超ユルコトヲ得ス(同上)

第二十一條 大藏卿ハ特ニ管理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十二條 日本銀行ハ本支店出張所及約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月一回之ヲ大藏卿ヘ報告ス可シ

第二十三條 日本銀行ハ本條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作り政府ノ許可ヲ受クヘシ但定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スル時ハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受ク可シ

第二十四條 政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ背戾スル

第二類 日本銀行條例

四百六十一

事ハ勿論政府ニ於テ不利ト認ル事件ハ之ヲ制止スヘシ
第二十五條 此條例ヲ改正増削スル時ハ其施行ノ日ヨリ三ヶ月以前ニ之ヲ布告
スヘシ

右奉 勅旨布告候事

●日本銀行納税ニ關スル件 (明治三十二年三月九日 法律第五十六號)

日本銀行ハ兌換銀行券條例第二條第二項ニ該當セル保證ニ據リ發行スル兌換券
ノ每一箇月ノ平均發行高ニ對シ其ノ發行税トシテ一箇年千分ノ十二半ノ割合ヲ
以テ政府ヘ納税スヘシ但シ政府ノ特命ニ依リ一箇年千分ノ十若ハ其ノ以內ノ利
息又ハ無利息ヲ以テ政府又ハ其ノ他ヘ貸付ケタル兌換券ニ對シテハ其ノ納税義
務ヲ免除ス
本法納税ノ義務ハ日本銀行カ既ニ負擔シ及將來ニ於テ負擔スヘキ他ノ義務ト關
係ナキモノトス

納税期限ハ一箇年ヲ兩度ニ區分シ前半季分ヲ八月三十一日後半季分ヲ翌年二月
二十八日限リ納ムルモノトス

●日本銀行兌換券發行税賦課額算出方

(明治三十二年三月 大藏省令第九號)

本年法律五十六號ニ依リ發行税ヲ課スヘキ兌換券ノ每一箇月平均發行高ハ毎日
ノ現發行高ヨリ政府ノ特命ニ依リ一箇年千分ノ十若ハ其ノ以內ノ利息又ハ無利
息ヲ以テ貸付ケタル金額ヲ控除シタルモノヲ一箇月分加算シ其ノ月ノ日數ヲ以
テ除シタルモノトス

税額ハ一箇月毎ニ算出シ其ノ六箇月分ヲ合計シテ半季分ノ税額トス

日本銀行ハ左記様式ニ準シ毎月平均發行額表ヲ調製シ翌月五日限リ之ヲ所轄税
務署ニ報告スヘシ(三十五年大藏省令第二十八號ヲ以テ本項中改正)

第二類 日本銀行納税ニ關スル件 日本銀行兌換 四百六十三
券發行税賦課額算出方

●横濱正金銀行條例

(明治二十年七月六日勅令第二十九號)

朕横濱正金銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

横濱正金銀行條例

第一條 横濱正金銀行ハ有限責任ニシテ其負債ニ對シテ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條 横濱正金銀行ハ本店ヲ横濱ニ設置ス又内外國ニ於テ貿易上要用ナル地ニ支店又ハ出張所ヲ設置シ又他ノ銀行ト「コルレスボンデンス」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置若クハ廢止シ又ハ外國銀行ト「コルレスボンデンス」ヲ締約若クハ解約スルトキハ其事由ヲ大藏大臣ニ具狀シテ許可ヲ受ケヘシ

第三條 横濱正金銀行ノ營業年限ハ開業ノ日即チ明治十三年二月二十八日ヨリ滿二十箇年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得

第四條 横濱正金銀行ノ資本金ハ六百萬圓ト定メ之ヲ六萬株ニ分チ一株ヲ百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増減ヲ請願スルコトヲ得

第五條 横濱正金銀行ノ株式ハ日本人ノ外賣買讓與スルコトヲ許サス

第六條 横濱正金銀行ノ株券ハ記名券ニシテ定款ニ從ヒ賣買讓與スルコトヲ得

第七條 横濱正金銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 外國ノ爲替及荷爲替

第二 内國ノ爲替及荷爲替

第三 貸付

第四 諸預金及保護預

第五 爲替手形約束手形其他諸證券ノ割引又ハ其代金取立

第六 貨幣ノ交換

第八條 横濱正金銀行ハ營業ノ都合ニ依リ公債證書地金銀又ハ外國貨幣ヲ買入レ又ハ賣拂フコトヲ得

第二類 横濱正金銀行條例

第九條 橫濱正金銀行ハ政府ノ命令ニ依リ外國ニ關スル公債及官金ノ取扱ヲ爲スコトアルヘシ

第十條 橫濱正金銀行ハ第七條第八條及第九條ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ許サズ

第十二條 橫濱正金銀行ハ左ノ場合ヲ除クノ外不動産株券其他ノ物件ヲ買取り又ハ引受クルコトヲ得ス

第一 銀行營業ノ爲メ地所家屋ノ必要アルトキ

第二 貸金返濟ノ爲メ負擔者ヨリ之ヲ引渡シ又ハ賣却スルトキ

第三 貸金ノ抵當ニシテ裁判上公賣ニ付シタルトキ

第十二條 橫濱正金銀行ハ本行ノ株券ヲ抵當ニ取り又ハ之ヲ買戻スヘカラス但負擔者其辨償ヲ怠リテ他ニ相當ノ抵當ナク若クハ返濟ノ道ナキ場合ニ於テ之ヲ抵當ニ取り又ハ引受クルハ此限ニ在ラス

第十三條 第十一條第二項第三項及第十二條ノ場合ニ於テ不動産株券其他ノ物

件ヲ引受ケシトキハ必ス十箇月以内ニ之ヲ賣却スヘシ但賣却代價不相當ト認めタルトキハ其實質ヲ大藏大臣ニ具申シ延期ヲ請フコトヲ得

第十四條 橫濱正金銀行ハ權利者ノ請求次第ニ支拂フヘキ諸預金ニ對シ其四分ノ一以上ニ當ル準備金ヲ備ヘ置クヘシ

第十五條 橫濱正金銀行取締役ハ五人以上トシ其任期ヲ一箇年トシ株主總會ニ於テ其人員ヲ定メ五十株以上ヲ所有スル株主中ニ就キ之ヲ選舉シ大藏大臣ノ認許ヲ受クヘシ其滿期ニ當リ復選セララル者モ亦同シ(二十二年勅令第十號ヲ以テ本條ヲ改正シ同年六月一日ヨリ施行ス)

第十六條 頭取ハ取締役ニ於テ之ヲ互選シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ且大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ特ニ日本銀行副總裁ヲシテ橫濱正金銀行頭取ヲ兼子シメ又ハ橫濱正金銀行頭取ヲシテ日本銀行理事ヲ兼子シムルコトアルヘシ

銀行事務ノ都合ニ依リ取締役ニ於テ副頭取一人ヲ互選スルコトヲ得但其職權

第二類 橫濱正金銀行條例

ハ頭取事故アルトキ之ヲ代理スルニ止マルモノトス
頭取取締役ノ職權及責任ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十七條 橫濱正金銀行ハ毎年二回定式株主總會ヲ開キ定款ニ定メタル事項ヲ決定スヘシ又臨時ノ事件ヲ議スル爲メ何時ニテモ臨時總會ヲ開クコトヲ得
株主總會ニ出席スル者ハ會期六十日以前ヨリ株主タル者ニ限ルヘシ

第十八條 每半季利益金ヲ配當スルトキハ豫メ其割合ヲ大藏大臣ニ具申シテ認可ヲ受クヘシ

第十九條 每半季純益金總額ノ十分ノ一以上ヲ積立テ左ノ目的ニ供スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フコト

第二 配當金ノ不足ヲ補フコト

第二十條 貸金返済ノ期限ヲ過キ到底損失ニ歸スヘキモノト認ムルトキハ其損失ト見積リタル金額ニ對シテ準備金ヲ積立ツヘシ

第二十一條 橫濱正金銀行營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本金ノ半額以上ヲ減少シ

タルトキ又ハ此條例ニ背戾シタル所爲アリテ大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ其營業ヲ停止シ又ハ解散ヲ命スルコトヲ得
又株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ受グルニ於テハ任意ノ解散ヲ爲スコト

ヲ得但此總會ニ於テハ株主總員二分ノ一以上ニシテ總株金二分ノ一以上ニ當ル株主出席シ其議決權ノ三分ノ二以上ニ依テ決議スルモノトス

第二十二條 橫濱正金銀行ニ於テ條例定款ニ背戾スル所爲アルトキ又ハ大藏大臣ニ於テ危險ナル所爲ト認ムル事件アルトキハ大藏大臣ハ之ヲ制止シ又ハ取締役ノ改選ヲ命スルコトヲ得(二十二年勅令第十號ヲ以テ本條改正)

第二十三條 大藏大臣ハ特ニ監理官ヲ派遣シテ橫濱正金銀行諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ(同上)

第二十四條 橫濱正金銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其營業上ニ係ル計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十五條 橫濱正金銀行本支店及出張所ニ於テハ重要ノ文書ニ其本支店若ク
第二類 橫濱正金銀行條例

ハ出張所ノ印ヲ押捺スヘシ但横文ヲ以テ發スル文書ニハ之ヲ押捺スルコトヲ要セス

第二十六條 横濱正金銀行ハ明治二十年七月十日ヨリ此條例ヲ遵奉シ株主總會ノ決議ヲ以テ更ニ定款ヲ制定シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但定款ノ改正増補ヲ要スルトキハ亦本條ニ準ス

第二十七條 横濱正金銀行ノ頭取取締役其他ノ役員ニシテ此條例ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 此條例ノ改正ヲ要スルコトアルトキハ三箇月以前ニ之ヲ公布スヘシ

●日本勸業銀行法

(明治二十九年四月十八日) 法律第八十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル日本勸業銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

日本勸業銀行法

第一章 總則

第一條 日本勸業銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲資本ヲ貸付スルヲ以テ目的トスル株式會社ニシテ其ノ本店ヲ東京ニ置ク

第二條 日本勸業銀行ノ資本金ハ一千萬圓トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本金ヲ増加スルコトヲ得

第三條 日本勸業銀行ノ各株式ノ金額ハ三百圓トス

第四條 日本勸業銀行ノ存立時期ハ設立免許ノ日ヨリ百箇年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ存立時期ヲ延長スルコトヲ得

第二章 重役

第五條 日本勸業銀行ニ總裁副總裁各一人理事監查役各三人以上ヲ置ク

第六條 總裁ハ日本勸業銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

第二類 日本勸業銀行法

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日本勸業銀行ノ業務ヲ分掌ス

監查役ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監查ス

第七條 總裁副總裁ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得

理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命シ任期ヲ五箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後本條ノ手續ニ依リ再任ヲ命スルコトヲ得

監查役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選定シ其ノ任期ヲ三箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再選スルコトヲ得

總裁副總裁理事及監查役ハ任命若ハ選定ノ六箇月前ヨリ引續キ本條規定ノ株數ヲ所有スル者ニ限ル

第八條 總裁副總裁及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從

事スルコトヲ得ズ但シ大藏大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 株主總會

第九條 通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ總裁之ヲ招集ス

第十條 臨時株主總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲何時ニテモ總裁之ヲ招集スルコトヲ得

第十一條 監查役又ハ總株金ノ五分以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主總會ノ招集ヲ總裁ニ請求スルコトヲ得

總裁前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ臨時株主總會ヲ招集スヘシ

第十二條 株主總會ニ於テハ株主ハ議決權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得ズ但シ法定代理人ハ此ノ限ニ在ラス

日本勸業銀行ノ役員及使用人ハ株主總會ニ於テ株主ノ代理人タルコトヲ得ズ

第十三條 (二十三年法律第三十九號ヲ以テ削除)

第四章 營業

第二類 日本勸業銀行法

第十四條 日本勸業銀行ハ五十箇年内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スモノトス

日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金總高ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ限り不動産ヲ抵當トシ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得

日本勸業銀行ハ臺灣ニ於テ貸付ヲ爲ス場合ニハ業主權ヲ擔保ニ徵スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法中抵當ニ關スル規定ヲ準用ス(三十六年法律第九號ヲ以テ本項追加)

第十五條 日本勸業銀行ハ府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ貸付ヲ爲ス場合ニ於テ抵當ヲ徵セサルコトヲ得

耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行スル場合ニ於テ參加土地所有者總員カ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキ又ハ整理委員カ規約ノ定ムル所ニ依リ借用ヲ申出タルトキハ抵當ヲ徵セスシテ定期償還貸付又ハ年賦償還貸付ヲ爲スコトヲ得(三十六年法律第九號ヲ以テ本項追加)

第十六條 日本勸業銀行ニ於テ不動産抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但シ舊債アル場合ニ於テ日本勸業銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ舊債

ヲ償還スル效果ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ヲ見込アルモノニ限ル

日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但シ抵當物ノ外ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動産又ハ不動産ヲ添抵當ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十八條 不動産ヲ抵當トシテ貸付クル金額ハ日本勸業銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス

第十九條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ

前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ貸付金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 土地抵當貸付ニ對スル年賦金ハ其ノ抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ控除シタル殘額ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十一條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ一箇年以上五箇年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但シ其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ据置年限ハ相手方ノ希望ニ因リ之ヲ定メサルコトヲ得(三十八年法律第四十八號ヲ以テ本項追加)

第二十二條 債務者年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遲延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第二十三條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前三借用金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ日本勸業銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手

敷料ヲ要求スルコトヲ得

第二十四條 債務者ハ借用金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應ジ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第二十五條 日本勸業銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遲延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十六條 日本勸業銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十八條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若ハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セザルトキハ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十七條 抵當不動産ノ全部若ハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セラルル場合ニ於テ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得但シ債務者ニ於テ收用補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ増抵當トスルトキ

第二類 日本勸業銀行法

ハ此限ニ在ラス

其ノ收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス

第二十八條 無抵當ニテ借入キタル府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セ

ル公共團體ニ於テ年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マ

サルトキ又ハ期限前ノ償還要求ニ對シ其ノ拂込ヲ爲ササルトキハ日本勸業銀

行ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得(三十八年法律第四十八號ヲ以

テ本項中改正)

前項ノ場合ニ於テ日本勸業銀行ハ府縣ニ對シテハ内務大臣ニ郡市町村其ノ他

法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シテハ第一次監督官廳ニ其ノ請求ヲ爲スヘ

シ

監督官廳請求ヲ受ケタルトキハ府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共

團體ニ命令シテ延滞金及第二十二條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ

第二十九條 日本勸業銀行ハ農工銀行法ニ依リ設立シタル各農工銀行ノ發行ス

ル農工債券ヲ引受クルコトヲ得

第三十條 日本勸業銀行ハ農工債券ヲ引受ケムトスル場合ニ於テ農工銀行ノ業

務及財産ノ實況ヲ調査スルコトヲ得

第三十一條 日本勸業銀行ハ農工銀行ノ年賦償還貸付金ノ債權及其ノ擔保

タル抵當權ヲ擔保トシテ年賦償還ノ方法ニ依リ貸付金ヲ爲スコトヲ得(三十

五年法律第四十一號ヲ以テ追加)

第三十二條 日本勸業銀行ハ其ノ業務ニ附帶シテ委託金ヲ受領シ又ハ地金

銀若ハ有價證券ノ保護預リヲ爲スコトヲ得(三十八年法律第四十八號ヲ以テ

改正)

第三十三條 日本勸業銀行ハ前條ノ委託金又ハ營業上ノ餘裕金アルトキハ一時

各種ノ國債證券地方債證券ヲ買入レ又ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ確實ナル銀行

ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得(三十一年法律二號三十八年同第四十八號ヲ以テ改

正)

第二類 日本勸業銀行法

日本勸業銀行ハ前項ニ依ルノ外前條ノ委託金又ハ營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十三條 日本勸業銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第五章 勸業債券

第三十四條 日本勸業銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ勸業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高及其ノ引受ケタル農工債券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

勸業債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條ノ規定ヲ適用セス(三十三年法律第三十九號ヲ以テ本項追加)

第三十五條 勸業債券ハ券面金額ヲ二十圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得(三十一年法律第二號ヲ以テ條中改正)

第三十六條 日本勸業銀行ハ少クトモ年賦償還貸付金及其ノ引受ケタル農工債

券ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ勸業債券ヲ償還スヘシ

日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ償還スル場合ニ於テハ割増金ヲ附與スルコトヲ得但シ其ノ方法及金額ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第三十六條ノ二 日本勸業銀行ハ第二十三條ニ依リ期限前ノ償還ヲ受ケタル場合ニ於テハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ金額ヲ限度トシ勸業債券ノ買入消却ヲ爲スコトヲ得(三十八年法律第四十八號ヲ以テ追加)

第三十七條 日本勸業銀行ハ勸業債券借換ノ爲一時第三十四條ノ制限ニ依ラズ

低利ノ勸業債券ヲ發行スルコトヲ得

低利ノ勸業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行

券面金額ニ相當スル舊勸業債券ヲ償還スヘシ

第三十八條 勸業債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ拂フ

ヘシ

第三十九條 日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セ

第二類 日本勸業銀行法

サルトキ及其ノ引受ケタル農工債券ニシテ之ヲ發行シタル農工銀行解散ノ爲ニ全額ノ償還ヲ得ルコト能ハサルトキハ第三十六條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額又ハ償還ヲ得サル農工債券面金額ニ相當スル勸業債券ヲ償還スヘシ

第四十條 勸業債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

第四十一條 勸業債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

第四十二條 勸業債券ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第六十號ヲ適用ス

第六章 準備金

第四十三條 日本勸業銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分

ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第七章 政府ノ監督及補助

第四十四條 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監督ス

第四十五條 日本勸業銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十六條 日本勸業銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若ハ代理店ヲ要用ナリトスルトキハ日本勸業銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第四十七條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第四十八條 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二類 日本勸業銀行法

第四十九條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第五十條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ日本勸業銀行ノ貸付金額 方法ヲ制限スルコトヲ得

第五十一條 日本勸業銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初ニ於テ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ之ヲ變更セムトスルコトキモ亦同シ

第五十二條 日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ發行セムトスルトキハ直接ニ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十三條 大藏大臣ハ特ニ日本勸業銀行監理官ヲ置キ日本勸業銀行ノ業務ヲ監視セシム

第五十四條 日本勸業銀行監理官ハ何時ニテモ日本勸業銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

日本勸業銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ日本勸業銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本勸業銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第五十五條 日本勸業銀行ノ配當金年百分ノ五ニ達セサルトキハ政府ハ創立初季ヨリ十箇年間ヲ限リ之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ其ノ額ハ如何ナル場合ト雖拂込資本金ノ百分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

第八章 罰則

第五十六條 日本勸業銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ總裁若ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス其ノ事犯副總裁又ハ

理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副總裁理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

- 一 第十四條ノ規定ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ
- 二 第十六條ノ規定ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シテ貸付ヲ爲シタルトキ

第二類 日本勸業銀行法

キ

- 三 第三十二條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ
- 四 第三十三條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ
- 五 第三十四條ノ規程ニ反シ勸業債券ヲ發行シタルトキ但シ第三十七條第一項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 六 第三十六條第一項第三十七條第二項及第三十九條ノ規程ニ反シ勸業債券ノ償還ヲ爲ササルトキ
- 七 第四十三條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ
- 第五十七條 日本勸業銀行ノ總裁副總裁及理事第八條ノ規程ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス
- 第五十八條 前二條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シ十四日以内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

附則

第五十九條 政府ハ設立委員ヲ置キ日本勸業銀行設立ノ免許ヲ與フルマテ其ノ

發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第六十條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第六十一條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出

シ銀行設立ノ免許ヲ稟請スヘシ

第六十二條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ日本勸業銀行總裁

ニ引渡スヘシ

第六十三條 設立初度ノ總裁副總裁理事及監查役ノ第七條ニ依リ所有スヘキ株

數ノ時期ニ付テハ同條第四項ヲ適用スルノ限ニ在ラス

第六十四條 設立初度ノ總裁副總裁及理事ノ任期ハ三箇年トス

設立初度ノ理事及監查役ハ株主中ヨリ政府之ヲ命ス

●農工銀行法

(明治二十九年四月十八日法律第八十三號)

第二類 農工銀行法

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル農工銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
農工銀行法

第一章 總則

第一條 農工銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲資本ヲ貸付スルヲ以テ目的トスル
株式會社ニシテ其ノ資本金ヲ二十萬圓以上トシ各株式ノ金額ハ二十圓トス

第二條 農工銀行ハ北海道又ハ一府縣ヲ以テ一營業區域トス但シ土地ノ情況ニ
依リ勅令ヲ以テ北海道又ハ一府縣ヲ二箇以上ノ營業區域ニ分割スルコトヲ
得

第三條 農工銀行ノ設立ハ一營業區域内ニ一行ヲ以テ限トス

第四條 農工銀行ノ營業區域内ニ原籍及住所ヲ有スル者ニ非ザルハ其株主トナ
ルコトヲ得ス

株主ニシテ農工銀行ノ營業區域外ニ原籍又ハ住所ヲ移轉スルコトアルモ株主
タルノ資格ヲ失フコトナシ

第五條 農工銀行ノ營業區域内ノ府縣郡市町村モ亦其ノ株主タルコトヲ得

第二章 營業

第六條 農工銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス(三十三年法律第四十號三十五年
同第十六號三十六年同第十號ヲ以テ條中改正)

一 三十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲
スコト

二 年賦償還貸付金總高ハ五分ノ一ニ相當スル金額ヲ限リ不動産ヲ抵當トシ
テ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコト

三 郡市町村又ハ法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シ無抵當ニテ本條第一號
第二號ノ貸付ヲ爲スコト

四 耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行スル場合ニ於テ參加土地所有者總員カ
連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキ又ハ整理委員方規約ノ定ムル所ニ依
リ借用ヲ申出タルトキハ無抵當ニテ本條第一號、第二號ノ貸付ヲ爲スコ

第二類 農工銀行法

五 二十人以上ノ農業者又ハ工業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出テタル
トキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ限り五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法
ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコト

第七條ノ一 前條ノ貸付ヲ爲スハ左ノ事項ニ使用スルヲ目的トスルモノニ限ル
(三十二年法律第四十號ヲ以テ條中改正)

- 一 開墾、排水、灌漑及耕地土質ノ改良
- 二 耕作道路ノ築造又ハ改良
- 三 殖林事業
- 四 種苗、肥料其ノ他農工業用原料ノ購入
- 五 農工業用ノ器具、機械、舟車、獸畜ノ購入
- 六 農工業用建物ノ築造又ハ改良
- 七 前各項ノ外農工業ノ改良

第七條ノ二 産業組合法ニヨリ設立シタル無限責任ノ信用組合購買組合及生産
組合ニハ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコトヲ得
(同上ヲ以テ追加)

第八條 農工銀行ニ於テ不動産抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要
ス但シ舊債アル場合ニ於テ農工銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ其ノ舊債ヲ償還
スル效果ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキハ此ノ限ニ在ラス
第九條 農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見
込アルモノニ限ル

農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但シ抵當物ノ外
ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動産又ハ不動産ヲ添抵當ト爲ス場合ニ於
テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十條 不動産ヲ抵當トシテ貸付クル金額ハ農工銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ
三分ノ二以内トス

第二類 農工銀行法

第十一條 年賦金ハ元金ト利子ト併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ

前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ貸付金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 土地抵當貸付ニ對スル年賦金ハ其ノ抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ控除シタル殘額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十三條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ一箇年以上五箇年以内ニ於テ據置年限ヲ定ムヘシ但シ其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 債務者年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遲延シタルトキハ拂込期日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第十五條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借用金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ農工銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料

ヲ要求スルコトヲ得

第十六條 債務者ハ借用金ノ五ノ分一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應ジ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第十七條 農工銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遲延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十八條 農工銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若ハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ農工銀行ハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十九條 抵當不動産ノ全部若ハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セララル場合ニ於テ農工銀行ハ償還期限前ト雖貸付金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得但シ債務者ニ於テ收用ノ補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ増抵當トスルトキハ此

第二類 農工銀行法

ノ限ニ在ラス

四百九十四

其ノ收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス

第二十條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ於テ年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキハ農工銀行ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得(三十六年法律第十號ヲ以テ條中改正)

監督官廳前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ命令シテ延滞金及第十四條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ

第二十一條 農工銀行ハ第六條ノ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テ債務者カ貸付ノ目的ニ反シ貸付金ヲ使用スルトキハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十二條 農工銀行ハ定期預リ金ヲ爲シ又ハ地金銀有價證券ノ保護預リヲ爲スルコトヲ得

第二十三條 農工銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ一時各種ノ國債證券地方債證券及勸業債券ヲ買入レ又ハ他ノ銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

農工銀行ハ前項ニ依ルノ外營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十四條 農工銀行ハ日本勸業銀行ノ代理店タルコトヲ得(三十二年法律第三十三號三十二年法律第四十號及三十五年法律第四十二號ヲ以テ本條中改正)

農工銀行ハ府縣郡市ノ爲ニ其ノ金錢出納ノ取扱ヲ爲スコトヲ得

農工銀行ハ日本勸業銀行ノ貸付ヲ代理シタル場合ニ於テハ日本勸業銀行ニ對シ債務者ノ爲ニ保證ヲ爲スコトヲ得

農工銀行ハ年賦償還貸付金ノ債權及其ノ擔保タル抵當權ヲ擔保トシテ日本勸業銀行ヨリ年賦償還ノ方法ニ依リ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 農工銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第三章 農工債券

第二類 農工銀行法

四百九十五

第二十六條 農工銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ五倍ヲ限リ農工債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高ヨリ第二十四條第四項ニ依リ質ト爲シタルモノヲ控除シタル金額ヲ超過スルコトヲ得ス
(三十二年法律第三十三號三十三年法律第四十號及三十五年法律第四十二號ヲ以テ本條中改正)

農工債券ハ券面金額ヲ十圓以上トシ無記名利札付トス但シ應募者若ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

農工債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條ノ規定ヲ適用セス

第二十七條 農工銀行ハ少クトモ年賦償還貸付金ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ農工債券ヲ償還スヘシ但シ第二十四條第四項ニ依リ質ト爲シタルモノノ償還高ハ此ノ限ニ在ラス(三十五法律第四十二號ヲ以テ追加)

第二十八條 農工銀行ハ農工債券借換ノ爲一時第二十六條ノ制限ニ依ラス低利ノ農工債券ヲ發行スルコトヲ得

低利ノ農工債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊農工債券ヲ償還スヘシ

第二十九條 農工債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ仕拂フヘシ

第三十條 農工銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキハ第二十七條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額ニ相當スル農工債券ヲ償還スヘシ

第三十一條 農工債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

第三十二條 農工債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

第三十三條 農工債券ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第二類 農工銀行法

四百九十七

六十號ヲ適用ス(明治二十三年法律第六十號ハ商法施行ノ日ヨリ廢止ス三十年法律第四十九號商法施行法第七十六條參看)

第四章 準備金

第三十四條 農工銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツ

第五章 政府ノ監督及補助

第三十五條 大藏大臣ハ農工銀行ノ業務ヲ監督ス

第三十六條 農工銀行ノ定款ハ大藏大臣ノ認可ヲ要ス之ヲ變更セムトスルトキモ亦同シ

第三十七條 農工銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若ハ代理店ヲ要用ナリトスルトキハ農工銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三十八條 農工銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 大藏大臣ハ農工銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十條 農工銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第四十一條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ農工銀行ノ貸付割引ノ金額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第四十二條 農工銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初ニ於テ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ變更セムトスルトキモ亦同シ

第四十三條 政府ハ特ニ北海道廳府縣高等官中ヨリ農工銀行監理官ヲ命シ大藏大臣ノ指揮ヲ承ケテ農工銀行ノ業務ヲ監視セシム

第二類 農工銀行法

第四十四條 農工銀行監理官ハ何時ニテモ農工銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

農工銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ農工銀行ニ命ジテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

農工銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第四十五條 農工銀行營業補助ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 罰則

第四十六條 農工銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 第六條ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

二 第八條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シ貸付ヲ爲シタルトキ

三 第二十三條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第二十五條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第二十六條ノ規程ニ反シ農工債券ヲ發行シタルトキ但シ第二十八條第一項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第二十七條第二十八條第二項及第三十條ノ規程ニ反シ農工債券ノ償還ヲ爲ササルトキ

七 第三十四條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第四十七條 前條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シテ十四日以内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

過料ノ辨納ニ付キテハ取締役連帶シテ其ノ責任ヲ負フ

附 則

第四十八條 北海道廳長官及府縣知事ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ設立委員ヲ置キ農工銀行設立ノ免許ヲ得ルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

(三十五年法律第四十三號ヲ以テ條中改正)

第二類 農工銀行法

五百一

第四十九條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第五十條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ銀行設立ノ免許ヲ稟請スヘシ

第五十一條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ農工銀行取締役ニ引渡スヘシ

第五十二條 農工銀行ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第七十二號銀行條例ヲ適用ス

●農工銀行補助法 (明治二十九年四月十八日) 法律第八十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル農工銀行補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農工銀行補助法

第一條 農工銀行法ニ依リ設立スル農工銀行ノ營業ヲ補助スル爲政府ハ豫算ニ定ムル所ニ從ヒ其ノ營業區域ヲ管轄スル府縣(沖繩縣ヲ除ク)ニ其ノ株式引

受資金ヲ交付ス

前項ノ交付金額ハ該府縣ノ宅地鑛泉地池沼ヲ除キ有租地段別百町ニ付七十圓以內トス但シ如何ナル場合ニ於テモ一府縣ニ交付スル總額三十萬圓ヲ超過シ又ハ農工銀行拂込資本金ノ三分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第二條 北海道及沖繩縣ニ設立スル農工銀行ノ營業ヲ補助スル爲其ノ創立初季ヨリ十五箇年ヲ限リ政府ハ豫算ニ定ムル所ニ從ヒ北海道ノ農工銀行ニ二萬五千圓以內沖繩縣ノ農工銀行ニ五千圓以內ヲ毎年交付ス但シ農工銀行ノ拂込資本金額ニ對シ一箇年百分ノ五ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス(三十三年法律第四十一號ヲ以テ條中改正)

第三條 府縣ハ第一條ノ交付金ヲ農工銀行ノ株式引受ニ供スルノ外他ニ使用スルコトヲ得ス

第四條 此ノ法律ニ依リ府縣ノ引受ケタル株式ニ對シテハ農工銀行ハ其ノ創立初季ヨリ十箇年間ハ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス(三十三年法律第四十一號

第二類 農工銀行補助法

ヲ以テ本項中改正)

前項ノ期限經過後仍五箇年間ハ農工銀行ハ前項府縣引受ノ株式ニ對スル配當金ヲ悉皆準備金ニ繰入ルヘシ

第五條 農工銀行ハ前條ノ期限ヲ經過シタル後ハ此ノ法律ニ依リ府縣ノ引受ケタル株式ニ對シ他ノ株式ト同一ノ利益配當ヲ爲スヘシ

前項ノ配當金ハ府縣ノ收入ニ繰入ルルモノトス

第六條 府縣ハ此ノ法律ニ依リ其ノ引受ケタル農工銀行ノ株式ヲ離權スルコトヲ得ス但シ第七條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 農工銀行創立初季ヨリ十五箇年經過ノ後府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ得テ此ノ法律ニ依リ引受ケタル農工銀行ノ株式ヲ市町村ニ交付スルコトヲ得(三十三年法律第四十一號ヲ以テ本項中改正)

市町村ハ前項ニ依リ交付セラレタル農工銀行ノ株式ヲ基本財産ト爲スヘシ

●日本興業銀行法 (明治三十三年三月二十二日) 法律第七十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル日本興業銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 日本興業銀行ハ株式會社トシ其ノ本店ヲ東京ニ置ク

第二條 日本興業銀行ノ資本金ハ一千萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ増

加スルコトヲ得

第三條 日本興業銀行ノ株式ノ金額ハ百圓トス

第四條 日本興業銀行ノ存立時期ハ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ延長スルコトヲ得

第二章 重役

第五條 日本興業銀行ニ總裁一人理事四人以上監査役三人以上ヲ置ク

第三類 日本興業銀行法

第六條 總裁ハ日本興業銀行ヲ代表ス
總裁及理事ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日本興業銀行ノ業務ヲ綜理ス
監査役ハ日本興業銀行ノ業務ヲ監査ス

第七條 總裁ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五箇年
トス

理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ選舉シタル二倍ノ候
補者中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ三箇年トス
監査役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任
期ヲ二箇年トス

第八條 總裁及理事ハ何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ
得ス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス(三十八年法律第
四十九號ヲ以テ但書追加)

第三章 營業

第九條 日本興業銀行ハ左ノ事務ヲ營ムモノトス(同上ヲ以テ條中改正)

第一 國債證券、地方債證券、社債券及株券ヲ質トスル貸付

第二 國債證券、地方債證券、社債券ノ應募又ハ引受

第三 預メ金及保護預メ

第四 信託ノ業務

第五 手形ノ割引

第六 法律ノ規定ニ依リ設定シタル財團ヲ抵當トスル貸付

前項第五號ノ手形ハ割引依頼人ヨリ國債證券、地方債證券、社債券又ハ株券
ヲ擔保ニ提供スルモノニ限ル

第十條 日本興業銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ國債證券、地方債證券及社債
券ノ買入ヲ爲スコトヲ得

第十一條 日本興業銀行ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ主務大
臣ノ認可ヲ受ケ外國ニ於テ營業銀行業務及其ノ附帶業務ニ付テハ此ノ限ニ在

第二類 日本興業銀行法

ラス(三十八年法律第四十九號ヲ以テ但書追加)

第四章 債券

第十二條 日本興業銀行ハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限リ債券ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ貸付金現在高、割引手形現在高及其ノ所有ニ係ル國債證券、地方債證券、社債券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス(同上ヲ以テ改正)

第十二條ノ二 日本興業銀行ハ外國ニ於ケル公益事業ニ對シ資金ノ需要アル場合ニ限リ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ本法第十二條、第十五條及商法第二百條ノ規定ニ依ラスシテ債券ヲ發行スルコトヲ得(同上ヲ以テ本條追加)前項公益事業ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 債券ハ券面金額五十圓以上トシ無記名利札付トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名ト爲スコトヲ得

第十四條 日本興業銀行ニ於テ債券ヲ發行セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ(同上ヲ以テ但書削除)

第十四條ノ二 日本興業銀行ニ於テ債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條ノ規定ヲ適用セス(同上ヲ以テ追加)

第十五條 日本興業銀行ノ債券ノ利子ハ毎年二回以上之ヲ支拂ヒ其ノ元金ハ發行ノ年ヨリ三十箇年以内ニ抽籤ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

第十六條 日本興業銀行ハ其ノ債券借換ノ爲低利ノ債券ヲ發行スル場合ニ於テハ第十二條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

低利ノ債券ヲ發行シタル時ハ發行後三箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊債券ヲ償還スヘシ

第五章 準備金

第十七條 日本興業銀行ハ每營業年度準備金トシテ資本ノ闕損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第六章 政府ノ監督及補助

第二類 日本興業銀行法

第十八條 政府ハ日本興業銀行ノ業務ヲ監督ス

第十九條 日本興業銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 日本興業銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 日本興業銀行ハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲サムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 主務大臣ハ日本興業銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二十三條 日本興業銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十四條 主務大臣ハ特ニ日本興業銀行監理官ヲ置キ日本興業銀行ノ業務ヲ監視セシム

第二十五條 日本興業銀行監理官ハ何時ニテモ日本興業銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

日本興業銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十六條 日本興業銀行ノ配當金ニシテ每營業年度ニ於テ年百分ノ五ノ割合ニ達セサルトキハ政府ハ創立初期ノ末日ヨリ五箇年間ヲ限り之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ但シ其ノ補給額ハ如何ナル場合ト雖拂込資本金ノ百分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

第七章 罰則

第二十七條 日本興業銀行ニ於テ左ノ事犯アリタルトキハ總裁及理事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ事犯ニ關セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

- 一 本法ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ
- 二 第十一條ノ規定ニ反シ本法ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

第二類 日本興業銀行法

三 第十二條第十六條ノ規定ニ反シ債券ヲ發行シタルトキ
第二十八條 日本興業銀行ノ總裁及理事第八條ノ規定ヲ犯シタルトキハ二十圓
以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

附 則

第二十九條 政府ハ設立委員ヲ置キ日本興業銀行ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ
處理セシム

第三十條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集ス

第三十一條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出
シ日本興業銀行設立ノ認可ヲ稟請スヘシ
前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ
爲サシムルコトヲ要ス

第三十二條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日本興業銀行總
裁ニ引渡スヘシ

● 臺灣銀行法

(明治三十年三月三十日
法律第三十八號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臺灣銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣銀行法

第一條 臺灣銀行ハ株式會社トス

臺灣銀行ハ本店ヲ臺灣ニ設置ス

第二條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ要地ニ支店代理店ヲ設置シ又ハ他ノ
銀行ト「コルレス」ヲ締約スルコトヲ得

主務大臣ニ於テ支店代理店ヲ必要ナリトスルトキハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セ
シムルコトアルヘシ

第三條 臺灣銀行ノ存立期間ハ設置免許ノ日ヨリ滿二十箇年トス但シ株主總會
ツ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ期限ヲ延長スルコトヲ得

第四條 臺灣銀行ノ資本金ハ五百萬圓以上トス

第二類 臺灣銀行法

第五條 臺灣銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

第一 爲換手形其ノ他商業手形ノ割引

第二 爲換及荷爲換

第三 平常取引スル諸會社又ハ商人ノ爲手形金ノ取立

第四 確實ナル不動産ヲ抵當トシ又ハ動産ヲ質トスル貸付

第五 諸預リ金及當座貸越勘定

第六 金銀貨、貴金屬及諸證券ノ保護預リ

第七 地金銀ノ賣買

第八 他銀行ノ業務代理

右ノ外營業ノ都合ニ由リ國債證券、地方債券又ハ勸業債券、農工債券ヲ買入

ルコトヲ得

第六條 臺灣銀行ハ此ノ法律ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 政府ハ臺灣銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第八條 臺灣銀行ハ券面金額一圓銀貨一枚以上ノ銀行券ヲ發行スルコトヲ得

(三十二年法律第三十四號ヲ以テ今條改正)

前項ノ銀行券ハ臺灣銀行本店及支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ一圓銀貨ト

引換フルモノトス但シ支店ニ於テハ本店ヨリ準備銀ノ到達スヘキ時間其ノ引

換ヲ延期スルコトヲ得

第九條 臺灣銀行ハ銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其ノ仕拂

準備ニ充ツヘシ(同上法律ヲ以テ本條中改正)

前項準備ニ依レル外銀行券ヲ發行セムトスルトキハ五百萬圓ヲ限度トシ政府

發行ノ紙幣、證券、兌換銀行券又ハ其ノ他確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證

トシテ之ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ發行額ハ前項準備ニ依レル發行額ニ超

過スルコトヲ得ス

市場ノ狀況ニ由リ前二項ノ外更ニ銀行券ノ發行ヲ必要トスルトキハ主務大臣

ノ認可ヲ受ケ政府發行ノ紙幣、證券、兌換銀行券又ハ確實ナル證券若ハ商業

第二類 臺灣銀行法

五百十五

手形ヲ保證トシテ之ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ノ定ムル所ニ依リ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ

第十條 臺灣銀行ヨリ發行スル銀行券ハ臺灣總督府管轄地方内ニ於テハ政府ノ收納ニ充ルコトヲ得(同上)

第十一條 臺灣銀行ハ營業ノ爲必要ナル物件ヲ買入レ又ハ債務辨濟ノ爲引受ケタル物件ヲ所有スルノ外動産、不動産ヲ買取ルコトヲ得ス

第十二條 臺灣銀行ニ頭取、副頭取各一人理事四人以上監查役三人以上ヲ置ク

第十三條 頭取、副頭取ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得

理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命シ任期ヲ四箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後本條ノ手續ニ依リ再任ヲ命スルコトヲ得

監查役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選定シ其ノ任

期ヲ三箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再選スルコトヲ得

理事及監查役ハ選舉ノ六箇月前ヨリ引續キ本條規定ノ株數ヲ所有スル者ニ限

ル

第十四條 頭取、副頭取及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラズ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ

第十五條 頭取ハ臺灣銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

副頭取ハ頭取事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ頭取缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副頭取及理事ハ頭取ヲ補助シ臺灣銀行ノ業務ヲ分掌ス

監查役ハ臺灣銀行ノ業務ヲ監査ス

第十六條 株主總會ヲ通常臨時ノ二種トス

通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ頭取之ヲ招集ス

臨時株主總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲何時ニテモ頭取之ヲ招集スルコトヲ得

監查役又ハ總株金ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主

總會ノ招集ヲ頭取ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ頭取ハ臨時株主總會ヲ招集スヘシ

第十七條 株主總會ニ於テハ株主ハ議決權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得ス但シ法律上ノ代理人ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 主務大臣ハ臺灣銀行監理官ヲ置キ臺灣銀行ノ業務ヲ監視セシム

第十九條 臺灣銀行監理官ハ何時ニテモ臺灣銀行ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

臺灣銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ臺灣銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

臺灣銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第二十條 臺灣銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第二十一條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 臺灣銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 主務大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ臺灣銀行ノ銀行券發行高、貸付金額及貸付方法ヲ制限スルコトヲ得(三十一年法律第十七號三十二年法律第三十四號ヲ以テ改正)

第二十四條 主務大臣ハ臺灣銀行ノ營業上此ノ法律又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

臺灣銀行ハ銀行券ノ發行額及仕拂準備ニ關スル毎週平均高表ヲ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ(三十二年法律第三十四號改正ニ依ル)

第二類 臺灣銀行法

第二十六條 臺灣銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ頭取若ハ頭取ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副頭取ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處シ其ノ事犯ニシテ副頭取理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副頭取理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

一 第六條ノ規定ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

二 第九條ノ規定ニ反シ銀行券ヲ發行シタルトキ (三十二年法律第三十四號 改正ニ依ル)

三 第二十條ノ規定ニ反シ準備金ヲ積立テサルトキ

附則

第二十七條 政府ハ臺灣銀行創立委員ヲ置キ其ノ設立ノ免許ヲ與フルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第二十八條 創立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第二十九條 創立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ臺灣銀行設立ノ免許ヲ申請スヘシ

第三十條 創立委員ハ前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ臺灣銀行頭取ニ引渡スヘシ

第三十一條 設立初度ノ理事及監查役ノ第十三條ニ依リ所有スヘキ株數ノ時期ニ就テハ同條第四項ヲ適用スルノ限ニ在ラス

●臺灣銀行補助法 (明治三十二年三月一日) 法律第三十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臺灣銀行補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣銀行補助法

第一條 政府ハ百萬圓ヲ限度トシ臺灣銀行ノ株式ヲ引受クヘシ

第二條 臺灣銀行ハ其創立初期ヨリ五箇年間ハ前條ノ株式ニ對シ配當スヘキ利益金ヲ缺損補填準備金ニ組入ルヘシ

第三條 前條ノ期限内政府ハ其引受ケタル株式ヲ賣却セズ

●北海道拓殖銀行法 (明治三十二年三月二十日) 法律第七十六號

第一類 臺灣銀行補助法

朕帝國協贊ヲ經タル北海道拓殖銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
北海道拓殖銀行法

第一章 總則

第一條 北海道拓殖銀行ハ北海道ノ拓殖事業ニ資本ヲ供給スルヲ以テ目的トス
北海道拓殖銀行ハ株式會社トシ其ノ本店ヲ北海道札幌ニ置ク

第二條 北海道拓殖銀行ノ資本金ハ三百萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ
増加スルコトヲ得

第三條 北海道拓殖銀行ノ存立時期ハ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之
ヲ延長スルコトヲ得

第二章 重役

第四條 北海道拓殖銀行ニ取締役四人以上監査役三人以上ヲ置ク

第五條 取締役ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ
其任期ヲ三箇年トス

監査役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ選任シ其ノ任期ヲ
二箇年トス

第六條 取締役ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務ニ從事スルコトヲ得ス但
シ營利ヲ目的トセサル職務ニシテ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ
在ラス(三十八年法律第五十號ヲ以テ但書追加)

第三章 營業

第七條 北海道拓殖銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス(同上ヲ以テ條中改正)

一 三十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トスル貸
付

二 五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トスル貸付

三 北海道ノ拓殖ヲ目的トスル株式會社ノ株券債券ヲ質トスル貸付及其ノ
社債券ノ應募、引受

四 爲替、荷爲替及北海道ノ產物ヲ擔保トスル貸付

第二類 北海道拓殖銀行法

五 預り金及保護預り

六 手形ノ割引

拓殖銀行ハ前項第四號ニ依ルノ外仍北海道ノ產物ノ貯藏ヲ主タル目的トスル倉庫内ニ貯藏スル產業上必要ノ貨物ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコトヲ得
第一項第六號ノ手形ハ割引依頼人ヨリ北海道ノ產物又ハ北海道ノ拓殖ヲ目的トスル株式會社ノ株券、債券ヲ擔保ニ供スルモノニ限ル

第一項第三號、第四號、第六號及第二項ノ事業ニ使用スヘキ金額ハ第一項第一號及第二號ニ依ル貸付金總額ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第八條 北海道區町村制ヲ施行セル區町村及其ノ他法律ヲ以テ組織セル北海道ノ公共團體ニ對シ北海道拓殖銀行ハ無擔保ニテ年賦若ハ定期償還ノ方法ニ依リ貸付ヲ爲スコトヲ得

二十人以上ノ農業者又ハ工業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出テタルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ限リ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無

抵當貸付ヲ爲スコトヲ得(同上ヲ以テ本項追加)

產業組合法ニ依リ設立シタル無限責任ノ信用組合、販賣組合、購買組合及生産組合ニハ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコトヲ得(同上)

第九條 北海道拓殖銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ國債證券地方債證券又ハ社債券ヲ買入ルルコトヲ得

第九條ノ二 北海道拓殖銀行ハ日本銀行、日本勸業銀行及日本興業銀行ノ代理店トナルコトヲ得(同上)

第十條 北海道拓殖銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第十一條 北海道拓殖銀行ハ第七條第一號及第二號ノ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テ債務者カ貸付ノ目的ニ反シ貸付金ヲ使用シタルトキハ償還期限前下雖其ノ貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第四章 債券

第二類 北海道拓殖銀行法

第十二條 北海道拓殖銀行ハ拂込資本金額ノ五倍ヲ限リ債券ヲ發行スルコトヲ得但シ第七條第一號ニ依ル貸付金總高ヲ超過スルコトヲ得ス

商法第九十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス（三十八年法律第五十號ヲ以テ本項追加）

第十三條 北海道拓殖銀行ハ第七條第一號ニ依ル貸付金ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ其ノ債券ヲ償還スヘシ

第十四條 北海道拓殖銀行ハ第七條第一號ニ依ル貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキハ前條ト同時ニ抽籤ヲ以テ延滞金額ニ相當スル債券ヲ償還スヘシ

第十五條 北海道拓殖銀行ハ債券借換ノ爲一時第十二條ノ制限ニ依ラス低利ノ債券ヲ發行スルコトヲ得
低利ノ債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊債券ヲ償還スヘシ

第五章 準備金

第十六條 北海道拓殖銀行ハ每營業年度準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第六章 政府ノ監督又補助

第十七條 政府ハ北海道拓殖銀行ノ業務ヲ監督ス

第十八條 北海道拓殖銀行ハ其ノ定款ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 北海道拓殖銀行ハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 北海道拓殖銀行ハ第七條第一號ノ貸付金利率ニ付每營業年度ノ初ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ經テ其ノ最高歩合ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第二類 北海道拓殖銀行法

第二十一條 主務大臣ハ北海道拓殖銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若
ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二十二條 北海道拓殖銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ
景況又計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十三條 政府ハ北海道拓殖銀行監理官ヲ置キ主務大臣ノ指揮ヲ承ケテ北海
道拓殖銀行ノ業務ヲ監視セシム

第二十四條 北海道拓殖銀行監理者ハ何時ニテモ北海道拓殖銀行ノ金庫、券書
庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

北海道拓殖銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ北海道拓
殖銀行ニ命シテ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出サシムルコトヲ
得

北海道拓殖銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述ス
ルコトヲ得

第二十五條 政府ハ百萬圓ヲ限度トシ北海道拓殖銀行ノ株式ヲ引受クヘシ

第二十六條 前條ニ依リ政府ノ引受ケタル株式ニ對シテハ北海道拓殖銀行ハ其
ノ創立初期ノ末日ヨリ十箇年間ハ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス

第七章 罰則

第二十七條 北海道拓殖銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ取締役ヲ百圓以上千圓
以下ノ過料ニ處ス

一 第十條ノ規定ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

二 第十二條ノ規定ニ反シ債券ヲ發行シタルトキ但シ第十五條第一項ニ依レ
ルモノハ此ノ限ニアラス

三 第十三條第十四條及第十五條第二項ノ規定ニ反シ債券ノ償還ヲ爲ササル
トキ

四 本法ニ於テ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

第二十八條 北海道拓殖銀行ノ取締役第六條ノ規定ヲ犯シタルトキハ二十圓以

第二類 北海道拓殖銀行法

上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十九條 北海道拓殖銀行ノ發行スル債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者
ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律第
二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

附則

第三十條 主務大臣ハ北海道拓殖銀行設立委員ヲ置キ北海道拓殖銀行ノ設立ニ
關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十一條 設立委員ハ定款ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集ス

第三十二條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ主務大臣ニ
提出シ銀行設立ノ認可ヲ稟請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ
爲サシムルコトヲ要ス

第三十三條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ北海道拓殖銀行

取締役ニ引渡スヘシ

第三十四條 北海道拓殖銀行ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年
法律第七十二號銀行條例ヲ適用ス

●銀行ニ關スル法律ニ定メタル過料ニ關スル件

(明治三十二年三月九日
法律第五十三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル銀行ニ關スル法律ニ定メタル過料ニ關スル法律ヲ裁
可シ茲ニ之ヲ公布セシム

銀行ニ關スル法律ニ於テ定メタル過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至
第二百八條ノ規定ヲ準用ス

●外國ニ於ケル銀行事業ニ關スル件

(明治三十八年三月九日
法律第四十七號)

第二類 銀行ニ關スル法律ニ定メタル過料ニ關スル件 五百三十一
ル件 外國ニ於ケル銀行事業ニ關スル件

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國ニ於ケル銀行事業ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
外國ニ於テ銀行業ヲ營ムモノニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケ之ニ準據セシムルコトヲ得

●株式會社第一銀行ノ韓國ニ於ケル業務ニ關

スル件 (明治三十八年三月二十三日勅令第七十三號)

朕株式會社第一銀行ノ韓國ニ於ケル業務ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 株式會社第一銀行ノ韓國ニ於ケル業務ハ外務大臣及大藏大臣ノ監督ニ屬ス
第二條 株式會社第一銀行ハ韓國貨幣整理事務、韓國官金取扱及銀行券發行ニ

關スル業務ニ付テハ韓國京城ニ設置シタル支店ヲ以テ韓國總支店ト爲シ韓國各支店、出張所及代理店ヲ總轄セシムヘシ

第三條 株式會社第一銀行ハ支店、出張所若ハ代理店ヲ韓國ニ設置シ又ハ之ヲ廢止セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ株式會社第一銀行ニ命シテ韓國ニ支店又ハ出張所ヲ設置セシムルコトヲ得

第四條 株式會社第一銀行ハ韓國ニ於テ營ム業務ノ爲ニ特ニ資本金額ヲ定メテ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 株式會社第一銀行ハ韓國各支店及出張所ニ於テ營ムヘキ業務ノ種類及方法ヲ定メテ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 株式會社第一銀行ハ每營業年度韓國各支店及出張所ノ損益勘定ヲ集計シ其ノ總益金ヨリ總損金ヲ差引タル利益金ノ二十分ノ一以上ヲ少クトモ韓國ニ於ケル營業資本金ノ半額ニ達スル迄積立テ特別準備金トシテ京城支店ニ備

第二類 株式會社第一銀行ノ韓國ニ於ケル業務ニ 五百三十三 關スル件

第七條 株式會社第一銀行ハ韓國ニ於テ公私一切ノ取引ニ無制限ニ通用スヘキ銀行券ヲ發行スルコトヲ得

第八條 株式會社第一銀行カ韓國ニ於テ發行シタル銀行券ハ韓國各支店及出張所ニ於テ營業時間中何時ニテモ通貨ヲ以テ引換フヘシ但シ京城以外ノ支店及出張所ニ於テハ京城支店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其ノ引換ヲ延期スルコトヲ得

第九條 株式會社第一銀行京城支店ハ韓國ニ於ケル其ノ銀行券發行總高ニ對シ同額ノ金貨、金銀地金及日本銀行兌換銀行券ヲ置キ其ノ引換準備ニ充ツヘシ但シ銀地金ハ引換準備總額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス
前項準備ニ依ルノ外株式會社第一銀行ハ一千萬圓ヲ限リ國債證券、商業手形其ノ他確實ナル證券ヲ保證トシテ銀行券ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ準備價格ハ主務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

經濟上ノ景況ニ依リ必要アル場合ニ於テハ主務大臣ノ特ニ指定スル條件ニ依リ前二項ノ外更ニ銀行券ノ發行ヲ爲スコトヲ得

主務大臣ハ韓國貨幣整理ノ經過又ハ金融ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ銀行券ノ種類及發行高ヲ制限スルコトヲ得

第十條 銀行券ノ様式及種類ニ關シテハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 銀行券ノ所有者ハ韓國ニ於ケル株式會社第一銀行ノ財産ニ付先取特權ヲ有ス

第十二條 株式會社第一銀行カ韓國政府ト契約ヲ締結シ又ハ韓國政府ヨリ特許特權ヲ受ケムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 主務大臣ハ株式會社第一銀行カ韓國ニ於テ營業業務ニ關シ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ其ノ韓國各支店、出張所及代理店ノ金庫、券書庫、帳簿其ノ他ノ文書ヲ検査シ又ハ諸般ノ景況及計算ニ關スル報告書ヲ差出サシムルコトヲ得

第二類 株式會社第一銀行ノ韓國ニ於ケル業務ニ 五百三十五
關スル件

第十四條 主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ株式會社第一銀行カ韓國ニ於テ營業
貸付、割引ノ金額及方法又ハ其ノ利子歩合其ノ他爲替料等ニ關シ相當ノ制限
ヲ爲スコトヲ得

第十五條 主務大臣ハ株式會社第一銀行監理官ヲ置ク
監理官ハ主務大臣ノ指揮ヲ承ケ株式會社第一銀行韓國各支店、出張所及代理
店ノ業務ヲ監視ス

第十六條 株式會社第一銀行監理官ハ何時ニテモ株式會社第一銀行韓國各支
店、出張所及代理店ノ金庫、券書庫、帳簿其ノ他ノ文書ヲ檢查シ又ハ諸般ノ
景況及計算ニ關スル報告書ヲ差出サシムルコトヲ得

第十七條 株式會社第一銀行ハ銀行券ノ發行額及引換準備ニ關スル平均高表ヲ
公告スヘシ公告ノ方法ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 株式會社第一銀行ノ定款ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要
ス

第十九條 株式會社第一銀行ハ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ更
ニ認可ヲ受ケヘシ

第二十條 主務大臣ハ株式會社第一銀行カ法令又ハ定款ニ背戾シ若ハ本令ニ基
キテ發シタル命令ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲アリト認ムルトキハ役員
ノ更任ヲ命シ、認可ヲ取消シ又ハ韓國ニ於テ營業業務ノ全部若ハ一部ノ停止
ヲ命スルコトヲ得

附則

本令施行前株式會社第一銀行カ韓國ニ於テ發行シタル銀行券ハ本令ニ依リテ發
行シタルモノト看做ス

●信託

●擔保附社債信託法

(明治三十八年三月十一日
法律第五十二號)

第二類 擔保附社債信託法

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル擔保附社債信託法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
擔保附社債信託法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ信託會社ト稱スルハ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム會社ヲ謂フ

第二條 社債ニ物上擔保ヲ附セムトスルトキハ其ノ社債ヲ發行スル會社ト信託會社トノ信託契約ニ從ヒ之ヲ發行スヘシ

第三條 本法ニ依ル信託ノ引受ハ之ヲ商行為トス

第四條 社債ニ附スルコトヲ得ヘキ物上擔保ハ左ニ掲クルモノニ限ル

- 一 動産質
- 二 證書アル債權質
- 三 不動産抵當
- 四 船舶抵當

五 鐵道抵當

六 工場抵當

七 鑛業抵當

第五條 擔保附社債ニ關スル信託事業ハ特別ノ法律ニ依ル場合ヲ除クノ外主務官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第六條 信託會社ハ銀行事業ヲ除クノ外他ノ事業ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第七條 信託會社ノ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ總額ハ百萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

第八條 信託會社ハ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ拂込金額カ五十萬圓ニ達スル迄其ノ事業ニ著手スルコトヲ得ス

第九條 信託ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第十條 主務官廳ハ何時ニテモ信託會社ヲシテ其ノ事業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第二類 擔保附社債信託法

第十一條 主務官廳ハ信託會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況カ信託事業ノ執行ニ適セスト認ムルトキハ其ノ事業ノ停止又ハ業務執行方法ノ變更ヲ命シ其ノ他委託會社及社債權者ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十二條 信託會社カ法令、定款若ハ主務官廳ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行為ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其ノ事業ノ停止若ハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ專業トスル會社ハ免許ノ取消ニ因リテ解散ス

第十四條 信託會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務官廳ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第十五條 商法第八十八條、第八十九條、第九十六條第二項、第一百條、第二十二條第二項、第二百二十八條第二項又ハ第二百三十二條ニ定ムル清算人ノ選任又ハ解任ハ主務官廳ニ於テ之ヲ爲ス

商法第二百二十八條第二項ニ依ル請求ハ委託會社又ハ社債權者集會ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第十六條 信託會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

主務官廳ハ何時ニテモ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得

第十七條 外國ニ於テ物上擔保附社債ヲ募集セムトスル會社ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ外國會社ト信託契約ヲ締結スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ信託ヲ引受ケタル外國會社カ日本ニ支店ヲ有セザルトキハ日本ニ於ケル代表者ヲ定ムヘシ

商事會社ハ前項ノ代表者タルコトヲ得

第二項ノ規定ニ依リ代表者ヲ定メタルトキハ遲滯ナク其ノ氏名及住所又ハ商號及本店ヲ主務官廳ニ届出ヘシ

日本ニ於ケル外國會社ノ代表者ハ信託事務ニ關シテハ信託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ト同一ノ權限ヲ有ス

第二類 擔保附社債信託法

第二章 信託證書

第十八條 信託契約ハ信託證書ニ依リ之ヲ締結スヘシ

第十九條 信託證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ委託會社及受託會社ノ代表者之ニ署名スヘシ

- 一 委託會社及受託會社ノ商號
- 二 社債ノ總額
- 三 各社債ノ金額
- 四 社債發行ノ價額又ハ其ノ最低價格
- 五 社債ノ利率
- 六 社債償還ノ方法及期限
- 七 利息支拂ノ方法及期限
- 八 債券ニ記載スヘキ事項ノ表示及利札附ナルトキハ其ノ旨ノ表示
- 九 擔保ノ種類、目的物、順位、先順位ノ擔保ヲ附シタル債權ノ金額其ノ他

目的物ニ關シ擔保權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ權利ノ表示

第三十二條ニ依ル社債ナルトキハ其ノ事實及各會社ノ負擔部分

十二 委託及受託ノ表示

十二 證書作成ノ年月日

各社債ノ金額ハ均一ナルカ又ハ最低額ヲ以テ整除シ得ヘキモノナルコトヲ要ス

第二十條 信託證書ハ委託會社及受託會社ニ於テ各自其ノ一通ヲ保存スヘシ

前項ノ信託證書ハ其ノ原本ヲ本店ニ、其ノ謄本ヲ各支店ニ備置クヘシ

第二十一條 信託證書ノ原本又ハ謄本ハ委託會社ノ株主、債權者又ハ社債應募者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ之ヲ閱覽セシムヘシ

第三章 社債募集

第二十二條 信託契約ニ依リ物上擔保附社債ヲ募集スル會社ハ左ノ事項ヲ公告

第二類 擔保附社債信託法

スヘシ

- 一 第十九條第一項第一號乃至第七號及第十號ニ掲ケタル事項
 - 二 物上擔保附社債ナルコト
 - 三 信託證書ノ表示
 - 四 擔保ノ價格ヲ知ラシムルニ必要ナル程度ニ於テ第十九條第一項第九號ニ掲ケタル事項ノ概要ノ表示
 - 五 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘサル總額
 - 六 會社ノ資本及拂込ミタル株金ノ總額
 - 七 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額
 - 八 信託證書若ハ其ノ謄本ヲ應募者ノ閱覽ニ供スヘキ時及場所
- 前項ノ公告ハ受託會社ノ承認ヲ得テ之ヲ爲スヘシ
- 第二十三條 委託會社ハ信託契約ニ依リ社債ノ募集ヲ受託會社ニ委任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會社ハ債券ノ發行

社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ第二十二條第一項ニ掲ケタル公告ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公告ニハ受託會社カ委託會社ニ代リテ社債ノ募集ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第二十五條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ社債ノ總額ヲ引受クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第二十二條及前條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ要セス

第二十六條 前條第一項ノ場合ニ於テ受託會社ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ委託會社ニ通知シテ前項ノ債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十七條 受託會社カ第二十五條第一項ニ依リ引受ケタル社債ヲ讓渡サムト

第二類 擔保附社債信託法

スルトキハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

前項ノ公告ニ記載スヘキ事項ニ付テハ第二十二條第一項ノ規定ヲ準用ス

受託會社ハ社債ヲ讓受ケムトスル者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ

信託證書又ハ其ノ謄本ヲ閱覽セシムヘシ

第二十八條 受託會社カ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ委託

會社ニ代リテ其ノ社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ

有ス

第二十九條 委託會社又ハ受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ從ヒ第三者ナシテ

社債ノ總額ヲ引受ケシムルコトヲ得

前項ニ依ル社債總額ノ引受ハ之ヲ商行爲トス

第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之

ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ受託會社ニ對シテ

前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十條 第二十五條第二項、第二十七條第一項、第二項及第二十八條ノ規定

ハ前條第一項ニ依リ第三者カ社債ノ總額ヲ引受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 委託會社又ハ受託會社ハ信託證書ノ謄本ヲ第二十九條第一項ニ依

リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ

前項ノ謄本ハ委託會社又ハ受託會社ノ代表者之ニ署名シテ原本ト相違ナキコ

トヲ認證スヘシ

第二十七條第三項ノ規定ハ第一項ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第三十二條 會社ハ合同シテ社債ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社債ノ

募集ヲ受託會社ニ委任シ又ハ受託會社ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムヘシ

第三十三條 前條ノ場合ニ於テハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ

支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十四條 委託會社ハ商法第二百四條第二項ノ規定ニ從ヒ左ノ事項ヲ登記ス

第二類 擔保附社債信託法

ヘシ

一 第十九條第一項第一號乃至第三號、第五號乃至第七號、第九號及第十號ニ掲ケタル事項

二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項

三 第二十三條ニ依ル委任又ハ第二十五條第一項ニ依ル引受アリタルトキハ其ノ事實

四 第二十九條第一項ニ依ル引受アリタルトキハ其ノ事實及引受人ノ氏名又ハ商號

第四章 債券

第三十五條 信託證書ニ依ル債券ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 第十九條第一項第一號乃至第三號、第五號乃至第七號ニ掲ケタル事項

二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項

三 債券ノ番號

四 前條第三號及第四號ニ掲ケタル事項

第三十六條 受託會社ハ委託會社カ信託契約ノ條款ニ適合スル債券ヲ發行シタルトキハ其ノ請求ニ依リ債券カ信託證書ニ依ル債券ナルコトヲ證明シテ之ヲ委託會社又ハ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘシ

前項ノ證明ハ各債券ニ記載シテ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

第三十七條 信託證書ニ依ル債券ハ前條ノ證明アルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十八條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ其ノ旨ヲ各債券ニ記載シ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ適用セス

第三十九條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ商法第二百六條ニ依ル記載ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲シ商法第二百七條ニ依ル請求ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲シ
第二類 擔保附社債信託法

會社ニ對シテ之ヲ爲ス

五百五十

第五章 社債原簿

第四十條 會社カ物上擔保附社債ヲ發行シタルトキハ社債原簿ニ商法第七十

三條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 第十九條第一項第一號、第七號、第九號及第十號ニ掲ケタル事項

二 第三十四條第二號乃至第四號ニ掲ケタル事項

第四十一條 委託會社ハ社債原簿ノ謄本ヲ作成シテ之ヲ受託會社ニ交付スヘシ

前項ノ謄本ハ委託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ

第四十二條 受託會社ハ前條ノ謄本ヲ其ノ本店ニ備置キ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ之ヲ閱覽セシムヘシ

第四十三條 社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ都度委託會社ハ取締

役又ハ之ヲ代表スル社員ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ受託會社ニ通知スヘシ
受託會社ハ前項ノ書面ヲ受ケタルトキハ之ヲ社債原簿ノ謄本ニ添附シテ保存スヘシ

第四十四條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ社債原簿ハ受託會社ニ於テ之ヲ作成シ其ノ本店ニ備置クヘシ

商法第七十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 前條第一項ノ場合ニ於テハ受託會社ニ於テ社債原簿ノ謄本ヲ作成シテ之ヲ委託會社ニ交付スヘシ

第四十一條第二項、第四十二條、第四十三條及商法第七十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ謄本ヲ

第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ

第四十一條第二項及第四十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二類 擔保附社債信託法

五百五十一

第四十七條 委託會社、受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者カ社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生スヘキ取扱ヲ爲シタルトキハ其ノ都度書面ヲ以テ社債原簿ヲ備フル會社ニ之ヲ通知スヘシ

第六章 社債權者集會

第四十八條 受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ必要アルトキハ何時ニテモ社債權者集會ヲ招集スルコトヲ得

第四十九條 委託會社又ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ハ集會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ提出シテ社債權者集會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ請求ヲ受ケタル者カ其ノ請求アリタル後二週間内ニ集會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其ノ請求ヲ爲シタル者ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ招集ヲ爲スコトヲ得

第五十條 第十五條第二項、第八十九條、第九十四條又ハ第九十九條ニ定メタル

ル集會ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ニ於テ自ラ之ヲ招集スルコトヲ得
前項ノ招集ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會社本店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第九十四條又ハ第九十九條ニ定メタル集會ハ委託會社モ亦自ラ之ヲ招集スルコトヲ得

第五十一條 商法第百五十六條ノ規定ハ社債權者集會ノ招集ニ之ヲ準用ス

第五十二條 社債權者集會ノ決議ハ信託契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外行使セラレタル議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第六十四條、第六十七條第一項、第七十五條、第八十五條、第八十六條及第九十七條第一項ニ記載シタル事項ノ決議ハ記名債券ヲ有スル者及第二項ノ規定ニ依リ債券ヲ供託シタル者ノ半数以上ニシテ社債總額ノ半数以上ニ當ル社債權者カ議決權ヲ行使シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二類 擔保附社債信託法

商法第六十一條第二項乃至第四項ノ規定ハ社債權者集會ノ決議ニ之ヲ準用ス

集會ニ出席セサル社債權者ハ信託契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外書面ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得

各社債權者ハ社債ノ最低金額毎ニ一箇ノ議決權ヲ有ス但シ社債ノ最低金額ノ十一倍以上ヲ有スル社債權者ノ議決權ハ信託契約ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得

第五十三條 第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者又ハ其ノ代表者ハ社債權者集會ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十四條 受託會社ノ代表者ハ社債權者集會カ第八十九條第二項ニ規定シタル事項ニ付招集セラレタル場合ヲ除クノ外之ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十五條 社債權者集會ヲ招集スル者ハ前二條ニ掲ケタル者又ハ其ノ代表者

ニ招集ノ通知ヲ發スヘシ

商法第五十六條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス

第五十六條 社債權者集會又ハ之ヲ招集シタル者ニ於テ必要ト認ムルトキハ委託會社ニ通知シテ其ノ代表者ノ出席ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 社債權者集會招集ノ手續又ハ其ノ議決ノ方法カ本法又ハ信託契約ノ條款ニ違反スルトキハ委託會社、受託會社又ハ各社債權者ハ其ノ決議ノ無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ之ヲ爲スヘシ

社債權者カ第一項ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ債券ヲ供託シ且招集ヲ爲シタル者ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スヘシ

第五十八條 社債權者集會ニ於テ決議スヘキ事項ハ本法ニ規定アルモノノ外特ニ信託契約ニ定メタルモノニ限ル

第五十九條 社債權者集會ヲ招集シタル者ハ決議錄ヲ作成スヘシ

第二類 擔保附社債信託法

第六十條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議録ノ原本又ハ謄本ヲ本店及支店ニ備置クヘシ

受託會社ハ委託會社又ハ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ前項ノ決議録ヲ閱覽セシムヘシ

第六十一條 受託會社以外ノ者カ決議録ヲ作成シタルトキハ自ラ其ノ原本ヲ保存シ其ノ謄本ヲ受託會社ニ交付スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第六十二條 社債權者集會ノ費用ハ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ於テ招集シタル場合ヲ除クノ外集會ヲ招集シタル者ニ於テ之ヲ負擔ス

第六十三條 社債權者集會ノ決議ハ受託會社之ヲ執行ス但シ其ノ性質カ受託會社ニ於テ執行スルコトヲ許ササルトキハ集會ニ於テ之ヲ執行スヘキ者ヲ定ム

第六十四條 信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社債權者集會ニ於テ一人又ハ數人ノ代表者ヲ選任シ其ノ決議スヘキ事項ノ決定ヲ之ニ委任スルコトヲ得

代表者ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者又ハ社債總額ノ千分ノ一以上ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ選任ス

代表者數人アル場合ニ於テ集會ニ於テ別段ノ定ヲ爲ササルトキハ代表者ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第六十五條 代表ハ第六十三條但書ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシムルコトヲ得

第六十六條 代表者就任シタルトキハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社、受託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第六十七條 社債權者集會ハ何時ニテモ代表者ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ第二類 擔保附社債信託法 五百五十七

リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第七章 信託契約ノ效力

第六十八條 受託會社ハ公平且誠實ニ信託事務ヲ處理スヘシ

第六十九條 受託會社ハ委託會社及社債權者ニ對シテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ信託事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第七十條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ信託證書ニ記載シタル總社債ノ爲ニ受託會社ニ歸屬ス

受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ擔保權ヲ保存シ且實行スルノ義務ヲ負フ

第七十一條 社債權者ハ其ノ債權額ニ應シ平等ニ擔保ノ利益ヲ享受ス

第七十二條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ社債成立以前ニ於テモ其ノ效力ヲ生ス

第七十三條 民法第三百四十八條、第三百七十五條及商法第二百七十七條ノ規定ハ信託契約ニ依ル擔保權ニ之ヲ適用セス

第七十四條 受託會社ハ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ追加スルコトヲ得

第七十五條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ變更スルコトヲ得

第七十六條 前二條ノ契約ハ信託契約ト同一ノ效力ヲ有ス

第七十七條 第七十四條及第七十五條ノ契約ハ委託會社及受託會社ノ代表者ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ委託會社及受託會社遲滯ナク各自之ヲ公告ス

ヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ契約證書ニハ第二十條及第二十一條ノ規定ヲ準用ス

第七十八條 信託契約ニ依ル擔保權ハ總社債權者ノ爲ニノミ之ヲ行使スルコトヲ得

第七十九條 委託會社カ定期ニ社債ノ一部ヲ償還スヘキ場合ニ於テ其ノ償還ヲ遲延シ二箇月ヲ經過シタルトキハ受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ一定

第二類 擔保附社債信託法

ノ期間内ニ支拂ヲ爲スヘキ旨及其ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失ハシムル旨ヲ委託會社ニ催告スルコトヲ得
委託會社カ前項ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失フ

第一項ノ催告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第八十條 前條ニ依リ委託會社カ期限ノ利益ヲ失ヒタルトキハ受託會社ハ遲滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十一條 前二條ノ規定ハ委託會社カ社債ノ利息ノ支拂ヲ遲延シ三箇月ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十二條 社債カ期限ニ至リ辨濟セラレヌ又ハ委託會社カ社債ノ辨濟ヲ完了セズシテ解散シタルトキハ受託會社ハ遲滞ナク社債權者集會ノ決議ニ依リ擔保權ヲ實行スヘシ

民法第三百五十四條ノ規定ハ信託契約ニ依ル動産質ニ之ヲ適用セス

第八十三條 受託會社ハ總社債權者ヲ爲ニ付與セラレタル執行力アル正本ニ基キ擔保物ニ付強制執行ヲ爲シ又ハ競賣法ニ依ル競賣ヲ申立若ハ委任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ債權者ニ對スル異議ハ受託會社ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得

第八十四條 受託會社ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社債權者ヲ爲ニ債權ノ辨濟ヲ得ルニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第八十五條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ總社債ニ付支拂ヲ猶豫シ、不履行ニ因リテ生シタル責任ヲ免除シ又ハ和解ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ總社債權者ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲シ又ハ破産手續ニ屬スル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第八十七條 受託會社カ第八十二條、第八十五條又ハ前條ニ掲ケタル行爲ヲ完
第二類 擔保附社債信託法
五百六十一

シタルトキハ遲滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條
第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十八條 受託會社カ社債權者ノ爲ニ辨濟ヲ得タル金額ハ遲滞ナク債權額ニ
應シテ各社債權者ニ交付スヘシ

受託會社カ前項ノ金額ヲ自己ノ爲ニ費消シタルトキハ民法第六百四十七條ノ
規定ヲ準用ス

社債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ社債權者カ受領ヲ拒ミ若ハ受領ス
ルコト能ハサルトキハ受託會社ハ其ノ社債權者ノ爲ニ前項ノ金額ヲ供託スヘ
シ

受託會社ハ必要アル場合ニ於テハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受
ケタル者ニ第一項及第三項ノ行爲ヲ委任スルコトヲ得

第八十九條 受託會社カ總社債權者ノ爲ニ爲スヘキ行爲ヲ怠リタルトキハ主務
官廳ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ特別代理人ヲ選任シテ之ヲ爲サシムルコト

ヲ得

社債權者ト受託會社トノ利益相反スル場合ニ於テ總社債權者ノ爲ニ裁判上又
ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス必要アルトキ亦前項ニ同シ

第九十條 本法ニ依リ總社債權者ニ代リテ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス場合
ニ於テハ各別ニ社債權者ヲ表示スルコトヲ要セス

第九十一條 受託會社ハ委託會社ニ對シ信託事務ノ處理ニ付相當ノ報酬ヲ請求
スルコトヲ得

信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ民法第六百四十八條第二項及第三項ノ規定ハ
信託契約ニ之ヲ準用ス

第九十二條 委託會社ハ受託會社カ信託事務ヲ處理スルニ付正當ニ支出シタル
一切ノ費用及支出ノ日以後ニ於ケル其ノ利息ヲ償還シ及過失ナクシテ受ケタ
ル一切ノ損害ヲ賠償スル義務ヲ負フ

受託會社ハ信託事務ヲ處理スルニ付要スル費用ノ前拂ヲ委託會社ニ請求スル

第二類 擔保附社債信託法

前二項ノ規定ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ關シ之ヲ準用ス

第九十三條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ前條第一項ノ規定ニ依リ受託會社ニ生スヘキ債權ノ爲ニモ其ノ效力ヲ有ス

受託會社ハ前項ノ債權ニ付社債權者ニ優先シテ擔保物ヨリ辨濟ヲ受ケル權利ヲ有ス

第九十四條 受託會社カ故意若ハ過失ニ因リ物上擔保ヲ消滅セシメ又ハ其ノ價格ヲ減少セシメタルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲシテ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ委託會社カ供託金ノ上ニ質權ヲ設定シタルモノト看做ス

前項ノ質權ハ信託契約ニ依ル物上擔保ト看做ス

第九十五條 委託會社、第六十四條第一項ニ依リ選任セラレタル代表者又ハ社

債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債權者ハ何時ニテモ受託會社ニ於ケル擔保物保管ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ其ノ債券ヲ受託會社ニ供託スルニ非サレハ前項ノ検査ヲ爲スコトヲ得ス

第九十六條 民法第二百九十八條第三項ノ規定ハ信託契約ニ依ル質權ニ之ヲ準用セス

第八章 信託事務ノ承繼及終了

第九十七條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ又ハ委託會社及社債權者集會ノ同意アルトキハ信託事務ヲ承繼スヘキ會社ヲ定メテ辭任スルコトヲ得 信託事務ヲ承繼スヘキ會社カ外國會社ナルトキハ第十七條第一項ノ規定ヲ準用ス

第九十八條 受託會社ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ辭任スルコトヲ得

第二類 擔保附社債信託法

第九十九條 受託會社カ其ノ義務ニ違反シ又ハ信託事務ヲ處理スルニ不適任ナルトキ其ノ他正當ノ事由アルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲ解任スルコトヲ得

第一百條 前二條ノ規定ニ依リ受託會社カ辭任シ又ハ解任セラレタルトキ又ハ免許ヲ取消サレ若ハ解散シタルトキハ主務官廳ハ更ニ受託會社ヲ選任シテ信託事務ヲ承繼セシムハシ

第一百一條 第九十七條ニ依ル信託事務ノ承繼ハ委託會社、前受託會社及新受託會社ノ代表者ノ署名シタル契約書ヲ作成スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス
前項ノ契約ヲ締結シタルトキハ各會社ハ遲滯ナク書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出ヘシ

前條ニ依ル承繼ハ新受託會社ニ對スル主務官廳ノ命令書ヲ交付スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第一百二條 信託事務ノ承繼ハ第九十七條ニ依ル場合ニ於テハ委託會社、前受託

會社及新受託會社、第一百條ニ依ル場合ニ於テハ委託會社及新受託會社遲滯ナク各自之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第一百三條 第九十七條ニ依リ定メラレ又ハ第一百條ニ依リ選任セラレタル新受託會社ハ前受託會社ノ締約シタル條款ニ從ヒ信託事務ヲ處理スヘシ

社債權者又ハ委託會社ノ爲ニ前受託會社ニ歸屬シタル權利義務ハ前受託會社ノ辭任、解任、免許ノ取消又ハ解散ノ時ニ遡リテ新受託會社ニ移轉ス但シ前受託會社ノ契約違反又ハ不法行爲ニ因リテ生シタル責任ハ此ノ限ニ在ラス

第一百四條 前受託會社ノ不法處分ニ因リ質物ノ占有ヲ得タル者カ惡意ナリシトキハ新受託會社カ其ノ者ノ爲ニ占有ヲ奪ハレタルモノト看做ス

第一百五條 前受託會社ノ取締役、之ヲ代表スル社員、清算人又ハ破産管財人ハ遲滯ナク其ノ委託會社又ハ社債權者ノ爲ニ保管スル物及信託事務ニ關スル書類ヲ新受託會社ニ移付シ其ノ他信託事務ヲ新受託會社ニ引繼ク爲必要ナル一

第二類 擔保附社債信託法

切ノ行為ヲ爲スヘシ

前項ニ掲ケタル引繼ヲ完了シタルトキハ各會社ハ共同シテ書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出ヘシ

前項ノ届書ニハ移付シタル物ノ目錄ヲ添附スヘシ

第百六條 承繼ニ關スル事務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第十六條第二項ノ規定ハ前項ノ監督ニ之ヲ準用ス

第百七條 受託會社カ信託事務ヲ終了シタルトキハ總計算書ヲ作成シテ之ヲ公告スヘシ

第九章 罰則

第百八條 第五條ノ規定ニ違反シテ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム者ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

第百九條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ十圓以上千圓以

下ノ過料ニ處ス

一 第六條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第八條ノ規定ニ違反シタルトキ

三 本法ニ依ル主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ

四 本法ニ依ル主務官廳ノ検査ヲ妨ケタルトキ

五 第十七條第一項又ハ第九十七條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

六 本法ニ依リ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

トキ

七 委託會社ニ於テ債券ヲ發行シタル場合ニ於テ第三十六條ニ定メタル手續ヲ履行セスシテ之ヲ交付シタルトキ

八 第七十條第二項ニ依ル擔保權ノ保存又ハ實行ヲ怠リタルトキ

九 第八十八條第一項又ハ同條第三項ノ規定ニ違反シタルトキ

十 第九十五條第一項ニ依ル検査ヲ妨ケタルトキ

第二類 擔保附社債信託法

十一 第五百五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ

十二 社債權者集會ノ決議ニ依ルヘキ場合ニ於テ之ニ依ラス又ハ之ニ違反シタルトキ

十三 社債權者集會又ハ其ノ代表者ニ對シテ不實ノ報告ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

第一百十條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者、第六十四條ノ代表者、第八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ定メタル届出、公告若ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲シタルトキ

二 本法ニ依リ交付スヘキ書類ヲ交付セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

三 本法ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ理由ナクシテ閱覽セシメサリシトキ

四 本法ニ依リ備置クヘキ書類ヲ備置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

第一百一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附則

第一百十二條 本法ニ依リ署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

第一百十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム合名會社及合資會社ノ設立登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ非訟事件手續法第七十九條第二項ニ掲ケタル書面ノ外主務官廳ノ免許書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ
既設ノ會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム免許ヲ受ケタルニ因リ其ノ
第二類 擔保附社債信託法
五百七十一

十一 第五百五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ

十二 社債權者集會ノ決議ニ依ルヘキ場合ニ於テ之ニ依ラス又ハ之ニ違反シタルトキ

十三 社債權者集會又ハ其ノ代表者ニ對シテ不實ノ報告ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

第一百十條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者、第六十四條ノ代表者、第八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ定メタル届出、公告若ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲シタルトキ

二 本法ニ依リ交付スヘキ書類ヲ交付セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

三 本法ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ理由ナクシテ閱覽セシメサリシトキ

四 本法ニ依リ備置クヘキ書類ヲ備置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

第一百一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附則

第一百十二條 本法ニ依リ署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

第一百十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム合名會社及合資會社ノ設立登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ非訟事件手續法第七十九條第二項ニ掲ケタル書面ノ外主務官廳ノ免許書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ
既設ノ會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム免許ヲ受ケタルニ因リ其ノ

第二類 擔保附社債信託法

登記ヲ申請スルトキ亦前項ニ同シ

第一百四條 信託會社ノ登記スヘキ事項ニシテ主務官廳ノ免許ヲ要スルモノニ付テハ免許書ノ到達ノ日ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第一百五條 主務官廳カ第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ依リ事業ノ停止ヲ命シ又ハ免許ヲ取消シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ囑託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第一百六條 本法ニ依ル社債ノ登記ノ申請書ニハ非訟事件手續法第九十一條ニ掲ケタル書面ノ外信託證書ヲ添附スヘシ

第一百七條 本法ニ依ル社債ノ登記事項ニ變更ヲ生シタルトキハ委託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ハ遲滞ナク其ノ登記ヲ申請スヘシ

前項ノ登記ノ申請書ニハ其ノ變更ヲ證スル書類ヲ添附スヘシ
第一百八條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登記ニ付テハ受託會社ヲ登記權利者トス

第一百九條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ不動産登記法第十六條又ハ第一百七條ニ依ル債權額ノ記載ハ社債ノ總額ヲ表示スルヲ以テ足ル

第二十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（三十八年勅令第八十五號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行セラル）

●擔保附社債信託法施行細則
（明治三十八年五月三十一日）
（大藏省令第三十五號）

擔保附社債信託法施行細則左ノ通相定ム

擔保附社債信託法施行細則

第一條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營マムトスル會社ハ免許申請書ニ定款ヲ添附シテ差出スヘシ

前項ノ書類ノ外合名會社又ハ合資會社ニ在リテハ出資ノ拂込額ヲ記載シタル書面株式會社ニ在リテハ非訟事件手續法第八十七條第二項第二號乃至第六

第二類 擔保附社債信託法施行細則
五百七十三

號及第九號ニ記載シタル書類株式合資會社ニ在リテハ之ニ準スヘキ書類ヲ添
附スルコトヲ要ス

第二條 既設會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營マムトスルトキハ免許申
請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ

- 一 定款又ハ會社契約書ノ謄本
- 二 目的變更ニ關スル株主總會ノ決議錄謄本又ハ社員總會ノ決議ヲ記載シタ
ル書面
- 三 最終ノ貸借對照表

第三條 信託會社カ信託契約ヲ締結シタルトキハ遲滞ナク左ノ書類ヲ添附シテ
届出ツヘシ

- 一 信託證書謄本
- 二 社債ノ總額ヲ引受ケ別ニ其ノ引受ニ關スル契約書アルトキハ其ノ契約書
謄本

三 社債募集ノ事由ヲ記載シタル書面

前項第一號ノ信託證書カ主務官廳ノ認可ヲ要スルモノナルトキハ認可ノ證印
アル信託證書ノ謄本ナルコトヲ要ス

前項ノ認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届
出ツヘシ

第四條 信託會社ハ信託契約ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク届出ツヘ
シ

前項ノ變更カ主務官廳ノ認可ヲ要スルモノナルトキハ其ノ認可書謄本ヲ添附
スヘシ

第五條 信託會社カ委託會社ノ委任ニ因リ社債ヲ募集シタル場合ニ於テ其ノ社
債ノ募集カ確定シタルトキハ遲滞ナク左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ
届出ツヘシ

- 一 應募ノ口數券面總額及其ノ申込價格ノ總額
- 第二類 擔保附社債信託法施行細則

二 募入ノ口數券面總額及總價格（即チ會社ノ實收スヘキ金額）

第六條 外國會社ト信託契約ヲ締結セムトスル會社ハ許可申請書ニ左ノ書類ヲ

添附シテ差出スヘシ

一 信託證書案

二 社債募集ニ關スル株主總會ノ決議錄謄本

三 擔保附社債信託法第二十二條第一項第五號乃至第七號ノ事項及社債募集

ノ事由ヲ記載シタル書面

四 信託ヲ引受ケムトスル外國會社ノ定款寫又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足

ル書面

五 前號ノ外國會社ノ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ總額及其ノ拂込金額

ヲ記載シタル書面

第七條 擔保附社債信託法第十七條第四項ノ届書ニハ代表者タル資格ヲ證スル

書面ヲ添附スヘシ

第八條 第六條ノ信託契約ヲ締結シタル外國會社ニ付テハ第三條乃至第五條ノ

規定ヲ準用ス

第九條 信託會社ハ社債權者集會ノ招集アリタルトキハ遲滞ナク集會ノ目的、

場所、期日及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

信託會社カ社債權者集會ノ決議錄ヲ作成シ又ハ決議錄謄本ノ交付ヲ受ケタル

トキハ遲滞ナク其ノ決議錄謄本ニ集會ノ狀況ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届

出ツヘシ其ノ決議ノ無効ノ宣告又ハ其ノ宣告ノ取消アリタルトキ亦同シ

社債權者集會ノ決議ヲ執行シタルトキハ執行者ハ遲滞ナク其ノ顛末ヲ記載シ

タル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

第十條 擔保附社債信託法第四十九條第二項ニ依ル許可申請書ニハ左ノ書類ヲ

添附スヘシ

一 集會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面

二 招集ノ請求ヲ受ケタル者カ請求アリタル後二週間内ニ招集ノ手續ヲ爲サ

第二類 擔保附社債信託法施行細則

サリシ事實ヲ記載シタル書面

前項ノ申請者カ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ナルトキハ前項ノ書類ノ外其ノ社債權者カ各自有スル債券額及社債原簿ニ現存セル社債總額ヲ記載シ且其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添ヘ其ノ許可申請書ニハ各自署名スヘシ但シ無記名債券ハ之ヲ信託會社ニ提供スルガ又ハ大藏大臣ノ指定スル銀行ニ預ケ入レ其ノ預リ證書ヲ提供スヘシ

第十一條 擔保附社債信託法第八十九條ニ依ル申請書ニハ社債權者集會ノ決議錄ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 擔保附社債信託法第八十九條第一項ノ場合ニ於テハ其ノ爲スヘキ行爲ヲ怠リタル事實ヲ證スル書面
- 二 同條第二項ノ場合ニ於テハ社債權者ト受託會社トノ利益相反スルノ事實及其ノ事實ニ依リ總社債權者ノ爲ニ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面

第十二條 擔保附社債信託法第九十四條ニ依ル申請書ニハ左ノ書類ヲ添附シテ

差出スヘシ但シ申請者カ社債權者集會ナルトキハ尙ホ其ノ決議錄謄本ヲ添附スヘシ

一 擔保ノ消滅又ハ其ノ價格ノ減少シタル事實カ受託會社ノ故意若ハ過失ニ出テタル事實ヲ證スル書面

二 擔保ノ消滅又ハ其ノ價格減少ニ關スル計算書

第十三條 信託會社カ擔保附社債信託法第八十八條第三項及第九十四條第一項ノ規定ニ依リ供託ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク供託金受領書謄本ヲ添ヘ届出ツヘシ

第十四條 信託會社ハ擔保附社債信託法第九十五條ニ依ル検査ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ年月日及検査ノ狀況ヲ報告スヘシ

第十五條 擔保附社債信託法第九十七條第二項ニ依リ外國會社ト信託事務ノ承繼契約ヲ締結セムトスル場合ニ於テハ委託會社ハ許可申請書ニ左ノ書類及第

第二類 擔保附社債信託法施行細則

六條第一項第四號及第五號ノ書類ヲ添附スヘシ

一 信託契約ノ定ムル所ニ依リ辭任シタルコト又ハ委託會社及社債權者集會
カ辭任ニ同意シタルコトヲ表示シタル書面

二 信託事務ニ關スル計算書

三 承繼契約書案

第十六條 擔保附社債信託法第九十八條ニ依ル許可申請書ニハ辭任ヲ要スル事

由ヲ記載シタル書面及信託事務ニ關スル計算書ヲ添附スヘシ

第十七條 擔保附社債信託法第九十九條ニ依ル申請書ニハ解任ヲ必要トスル事

由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ但シ申請者カ社債權者集會ナルトキハ尙ホ
其ノ決議錄謄本ヲ添附スヘシ

第十八條 擔保附社債信託法第一百一條第二項ニ依ル届書ニハ同條第一項ノ契約
書謄本ヲ添附スヘシ

前項ノ書類ニハ第十五條第一號及第二號ノ書類ヲ添附スヘシ但シ第十五條ノ

手續ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニアラス

第十九條 擔保附社債信託法第一百五條第二項ニ依ル届書ニハ引繼ノ顛末ヲ記載

シ同條第三項ノ目錄ト共ニ差出スヘシ

第二十條 信託會社カ信託事務ヲ終了シタルトキハ遲滯ナク總計算書ヲ添附シ
テ届出ツヘシ

第二十一條 信託會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ商法第七十八條ノ手續ヲ

了シタル後遲滯ナク各會社共同シテ左ノ書類ヲ添附シテ届出ツヘシ但シ合併

ニ依リ信託ノ業務ヲ廢止スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 合併ニ關スル契約書

二 合併ニ依リ設立シ又ハ合併後存續スル會社ノ定款

三 商法第七十八條第一項ノ規定ニ依リ作成シタル會社各自ノ貸借對照表

四 合併ニ關スル株主總會決議錄謄本又ハ社員總會ノ決議ヲ記載シタル書

面

第二類 擔保附社債信託法施行細則

五 商法第七十九條第一項ノ規定ニ依リタルコト又ハ同條第二項ノ規定ヲ履行シタルコトヲ證スル書面

合併セムトスル會社カ銀行タルトキハ銀行條例施行細則第七條ニ依ル認可申請書ニ第十五條第一號乃至第三號及前項第五號ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

合併ニ因リ設立シ又ハ合併後存續スル會社カ新ニ信託事業ヲ營ムトスルトキハ免許申請書ニ第一項ノ書類ヲ添附スヘシ

第二十二條 擔保附社債信託法第十四條及第十五條ニ依ル請求書ニハ請求者カ利害關係ヲ有スル事實及清算人ノ選任又ハ解任ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ差出スヘシ

前項ノ請求者カ社債總額十分ノ一二當ル社債權者ナルトキハ第十條第二項ノ規定ヲ適用ス

第二十三條 信託會社ノ清算人ハ就職後遲滯ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産

目錄及貸借對照表ヲ添附シテ届出ツヘシ

清算人ハ毎月清算ノ狀況ヲ報告スヘシ但シ重要ナル事項ニ付キテハ其ノ都度遲滯ナク届出ツヘシ

清算カ終了シタルトキハ遲滯ナク決算書ヲ添附シテ届出ツヘシ

第二十四條 信託會社カ登記又ハ登録ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ事項及年月日ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

第二十五條 左ノ場合ニ於テハ信託會社ハ遲滯ナク其ノ事由又ハ狀況ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

- 一 信託事業ニ關スル訴訟事件ノ當事者トナリタルトキ及其ノ判決アリタルトキ
- 二 非訟事件ニ付裁判所ニ請求又ハ抗告ヲ爲シタルトキ及其ノ決定アリタルトキ

三 検査役ノ選任アリタルトキ
第二類 擔保附社債信託法施行細則

四 仕拂ヲ停止シ又ハ解散ノ事由發生シタルトキ

五 商法第七十四條第一項ニ依ル株主總會ノ招集ヲ爲シタルトキ

第二十六條 明治三十二年大藏省令第二十四號銀行條例施行細則第四條乃至第六條及第九條乃至第十一條ノ規定ハ之ヲ信託會社ニ準用ス但シ營業報告中社債ニ關スル事項ハ附屬様式ニ準シテ調製スヘシ

信託會社ハ毎月實際報告表ヲ調製シ翌月十日マテニ差出スヘシ

附則

第二十七條 本令ハ擔保附社債信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附屬様式略ス)

●工場抵當

●工場抵當法

(明治三十八年三月十一日)
法律第五十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル工場抵當法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

工場抵當法

第一條 本法ニ於テ工場ト稱スルハ營業ノ爲物品ノ製造若ハ加工又ハ印刷若ハ撮影ノ目的ニ使用スル場所ヲ謂フ

營業ノ爲電氣又ハ瓦斯ノ供給ノ目的ニ使用スル場所ハ之ヲ工場ト看做ス

第二條 工場ノ所有者ガ工場ニ屬スル土地ノ上ニ設定シタル抵當權ハ建物ヲ除クノ外其ノ土地ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物及其ノ土地ニ備附ケタル機械、器具其ノ他工場ノ用ニ供スル物ニ及フ但シ設定行爲ニ別段ノ定アルトキ及民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ債權者ガ債務者ノ行爲ヲ取消スコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ工場ノ所有者ガ工場ニ屬スル建物ノ上ニ設定シタル抵當權ニ之ヲ準用ス

第三條 工場ノ所有者ガ工場ニ屬スル土地又ハ建物ニ付抵當權設定ノ登記ヲ申
第二項 工場抵當法
五百八十五

請スル場合ニ於テハ其ノ土地又ハ建物ニ備附ケタル機械、器具其ノ他工場ノ用ニ供スル物ニシテ前條ノ規定ニ依リ抵當權ノ目的タルモノノ目錄ヲ提出スヘシ

第二十二條第二項、第三十五條及第三十八條乃至第四十二條ノ規定ハ前項ノ目錄ニ之ヲ準用ス

第四條 第二條第一項但書ニ掲ケタル別段ノ定アルトキハ抵當權設定ノ登記ノ申請書ニ之ヲ記載スヘシ

第五條 抵當權ハ第二條ノ規定ニ依リテ其ノ目的タル物カ第三取得者ニ引渡サレタル後ト雖其ノ物ニ付之ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ民法第百九十二條乃至第百九十四條ノ適用ヲ妨ケス

第六條 工場ノ所有者カ抵當權者ノ同意ヲ得テ土地又ハ建物ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ヲ土地又ハ建物ト分離シタルトキハ抵當權ハ其ノ物ニ付消滅ス

工場ノ所有者カ抵當權者ノ同意ヲ得テ土地又ハ建物ニ備附ケタル機械、器具其ノ他ノ物ノ備附ヲ止メタルトキハ抵當權ハ其ノ物ニ付消滅ス

工場ノ所有者カ抵當權者ノ爲差押、假差押又ハ假處分アル前ニ於テ正當ナル事由ニ因リ前二項ノ同意ヲ求メタルトキハ抵當權者ハ其ノ同意ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條 抵當權ノ目的タル土地又ハ建物ノ差押、假差押又ハ假處分ハ第二條ノ規定ニ依リテ抵當權ノ目的タル物ニ及フ

第二條ノ規定ニ依リテ抵當權ノ目的タル物ハ土地又ハ建物ト共ニスルニ非サレハ差押、假差押又ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第八條 工場ノ所有者ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲一箇又ハ數箇ノ工場ニ付工場財團ヲ設ケルコトヲ得數箇ノ工場カ各別ノ所有者ニ屬スルトキ亦同シ

工場財團ニ屬スルモノハ同時ニ他ノ財團ニ屬スルコトヲ得ス
工場財團ハ抵當權ノ消滅ニ因リテ消滅ス

第二項 工場抵當法

第九條 工場財團ノ設定ハ工場財團登記簿ニ所有權保存ノ登記ヲ爲スニ依リテ之ヲ爲ス

第十條 工場財團ノ所有權保存ノ登記ハ其ノ登記後二箇月内ニ抵當權設定ノ登記ヲ受ケサルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第十一條 工場財團ハ左ニ掲グルモノノ全部又ハ一部ヲ以テ之ヲ組成スルコトヲ得

- 一 工場ニ屬スル土地及工作物
- 二 機械、器具、電柱、電線、配置諸管、軌條其ノ他ノ附屬物
- 三 地上權
- 四 貸貸人ノ承諾アルトキハ物ノ賃借權
- 五 工業所有權

第十二條 工場ニ屬スル土地又ハ建物ニシテ未登記ノモノアルトキハ工場財團ヲ設クル前其ノ所有權保存ノ登記ヲ受ケヘシ

第十三條 他人ノ權利ノ目的タルモノ又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルモノハ工場財團ニ屬セシムルコトヲ得ス

工場財團ニ屬スルモノハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ權利、差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス但シ抵當權者ノ同意ヲ得テ貸貸ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 工場財團ハ之ヲ一箇ノ不動産ト看做ス

工場財團ハ所有權及抵當權以外ノ權利ノ目的タルコトヲ得ス但シ抵當權者ノ同意ヲ得テ之ヲ貸貸スルハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 工場ノ所有者カ抵當權者ノ同意ヲ得テ工場財團ニ屬スルモノヲ財團ヨリ分離シタルトキハ抵當權ハ其ノモノニ付消滅ス

第十六條 第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 第二條、民法第三百七十一條、第三百八十八條及第三百八十九條ノ規定ハ土地又ハ建物カ抵當權ノ目的タル工場財團ニ屬スル場合ニ之ヲ準用

第二類 工場抵當法

ス

民法第二百八十一條ノ規定ハ要役地方抵當權ノ目的タル工場財團ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス

民法第三百九十八條ノ規定ハ地上權カ抵當權ノ目的タル工場財團ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 工場財團ノ登記ニ付テハ工場所在地ノ區裁判所又ハ其ノ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

不動産登記法第八條第二項ノ規定ハ工場カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カリ又ハ工場財團ヲ組成スル數箇ノ工場カ數箇ノ登記所ノ管轄地内ニ在ル場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 各登記所ニ工場財團登記簿ヲ備フ

第十九條 工場財團登記簿ハ一箇ノ工場財團ニ付一用紙ヲ備フ

第二十條 工場財團登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙ノ二區ニ

分チ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ケ

登記番號欄ニハ各財團ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ工場財團ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第二十一條 登記ノ申請書ニハ不動産登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 工場ノ名稱及位置

二 主タル營業所

三 營業ノ種類

第二十二條 工場財團ニ付所有權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ不動産登

第二類 工場抵當法

記法第三十五條第一項ニ掲ケタル書面ノ外工場財團目錄ヲ提出スヘシ
前項ノ目錄ニハ工場財團ヲ組成スルモノノ表示ヲ掲ケ申請人之ニ署名、捺印
スヘシ

第二十三條 所有權保存ノ登記ノ申請アリタルトキハ其ノ財團ニ屬スヘキモノ
ニシテ登記アルモノニ付テハ登記官吏ハ職權ヲ以テ其ノ登記用紙中相當區事
項欄ニ工場財團ニ屬スヘキモノトシテ其ノ財團ニ付所有權保存ノ登記ノ申請
アリタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スヘシ

前項ニ掲ケタルモノカ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ前項ノ規定ニ依リ記
載スヘキ事項ヲ遲滞ナク管轄登記所ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ第一項ノ手續ヲ爲シ其ノ登記簿ノ謄本ヲ通知
ヲ爲シタル登記所ニ送付スヘシ但シ其ノ謄本ニハ抹消ニ係ル事項ヲ記載スル
コトヲ要セス

前三項ノ規定ハ工業所有權カ工場財團ニ屬スヘキ場合ニ之ヲ準用ス但シ通知

ハ之ヲ特許局ニ爲スヘシ

第二十四條 前條ノ場合ニ於テ登記官吏ハ官報ヲ以テ工場財團ニ屬スヘキ動産
ニ付權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ一定ノ期間内ニ
其ノ權利ヲ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ但シ其ノ期間ハ一箇月以上三箇月以下
トス

前項ノ公告ハ所有權保存ノ登記ノ申請カ期間ノ滿了前ニ却下セラレタルトキ
ハ遲滞ナク之ヲ取消スヘシ

第二十五條 前條第一項ノ期間内ニ權利ノ申出ナキトキハ其ノ權利ハ存在セザ
ルモノト看做シ差押、假差押又ハ假處分ハ其ノ效力ヲ失フ但シ所有權保存ノ
登記ノ申請カ却下セラレタルトキ又ハ其ノ登記カ效力ヲ失ヒタルトキハ此ノ
限ニ在ラス

第二十六條 第二十四條第一項ノ期間内ニ權利ノ申出アリタルトキハ遲滞ナク
其ノ旨ヲ所有權保存ノ申請人ニ通知スヘシ

第二類 工場抵當法

第二十七條 所有權保存ノ登記ノ申請ハ不動産登記法第四十九條ニ掲ケタル場合ノ外左ノ場合ニ於テ之ヲ却下スヘシ

一 登記簿若ハ其ノ謄本又ハ登録ニ關スル原簿ノ謄本ニ依リ工場財團ニ屬スヘキモノカ他人ノ權利ノ目的タルコト又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルコト明白ナルトキ

二 工場財團目錄ニ掲ケタルモノノ表示カ登記簿若ハ其ノ謄本又ハ登録ニ關スル原簿ノ謄本ト抵觸スルトキ

三 工場財團ニ屬スヘキ動産ニ付權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者カ其ノ權利ヲ申出テタル場合ニ於テ遅クモ第二十四條第一項ノ期間滿了後一週間内ニ其ノ申出ノ取消アラサルトキ又ハ其ノ申出ノ理由ナキコトノ證明アラサルトキ

第二十八條 登記官吏カ所有權保存ノ登記ノ申請ヲ却下シタルトキハ第二十三條第一項ノ規定ニ依リテ爲シタル記載ヲ抹消スヘシ

他ノ登記所又ハ特許局ニ所有權保存ノ登記ノ申請アリタル旨ヲ通知シタル場合ニ於テハ其ノ申請ヲ却下シタル旨ヲ遲滞ナク通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所又ハ特許局ハ第二十三條第三項又ハ第四項ノ規定ニ依リテ爲シタル記載ヲ抹消スヘシ

第二十九條 工場財團ニ屬スヘキモノニシテ登記又ハ登録アルモノハ第二十三條ノ記載アリタル後ハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第三十條 第二十三條ノ記載アリタル後競賣申立ノ登記アリタル場合ニ於テハ所有權保存ノ登記ノ申請カ却下セラレサル間及其ノ登記カ效力ヲ失ハサル間ハ競落ヲ許ス決定ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 第二十三條ノ記載アリタル後ニ爲シタル差押、假差押若ハ假處分ノ登記又ハ先取特權ノ保存ノ登記ハ抵當權設定ノ登記アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第二類 工場抵當法

第三十二條 前條ノ規定ニ依リ差押、假差押又ハ假處分ノ登記カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ差押、假差押又ハ假處分ノ命令ヲ取消スヘシ

第三十三條 工場財團ニ屬スヘキ動産ハ第二十四條第一項ノ公告アリタル後ハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第二十四條第一項ノ公告アリタル後差押アリタルトキハ第三十條ノ規定ヲ準用ス

第二十四條第一項ノ公告アリタル後差押、假差押又ハ假處分アリタル場合ニ於テ抵當權設定ノ登記アリタルトキハ差押、假差押又ハ假處分ハ其ノ效力ヲ失フ

第三十四條 登記官吏カ所有權保存ノ登記ヲ爲シタルトキハ其ノ財團ニ屬シタルモノノ登記用紙中相當區事項欄ニ工場財團ニ屬シタル旨ヲ記載スヘシ

第二十三條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ登記簿又

ハ登録ニ關スル原簿ノ謄本ノ送付ヲ要セス

第三十五條 所有權保存ノ登記アリタルトキハ工場財團目錄ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其ノ記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第三十六條 工場財團ノ抵當權設定ノ登記ノ申請ハ不動産登記法第四十九條ニ掲ケタル場合ノ外第十條ノ期間ヲ經過シタル場合ニ於テ之ヲ却下スヘシ

第三十七條 登記官吏カ抵當權設定ノ登記ヲ爲シタルトキハ第三十一條ノ規定ニ依リ效力ヲ失ヒタル登記ヲ抹消スヘシ

第二十三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ登記簿謄本ノ送付ヲ要セス

第三十八條 工場財團目錄ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ所有者ハ遲滞ナク工場財團目錄ノ記載ノ變更ノ登記ヲ申請スヘシ

前項ノ登記ノ申請書ニハ抵當權者ノ同意書又ハ之ニ代ルヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第二類 工場抵當法

第三十九條

工場財團ニ屬スルモノニ變更ヲ生シ又ハ新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタルニ因リ變更ノ登記ヲ申請スルトキハ變更シタルモノ又ハ新ニ屬シタルモノノ表示ヲ掲ケタル目錄ヲ提出スヘシ
前項ノ規定ニ依リ提出シタル目錄ハ工場財團目錄ニ編綴シ登記官吏其ノ綴目ニ契印スヘシ

第四十條

工場財團ニ屬スルモノニ變更ヲ生シタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ前ノ目錄中其ノモノノ表示ノ側ニ其ノモノニ變更ヲ生シタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スヘシ

第四十一條

新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ前ノ目錄ノ末尾ニ新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スヘシ

第四十二條

工場財團ニ屬シタルモノカ滅失シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ目錄中其ノ登記ノ目的タルモノノ表示ノ側ニ其ノモノカ滅失シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載シ其ノモノノ表示ヲ朱抹スヘシ

第四十三條

第二十三條乃至第三十四條及第三十七條ノ規定ハ新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條

工場財團ニ屬シタルモノニシテ登記アルモノカ滅失シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ其ノモノノ登記用紙中相當區事項欄ニ其ノ旨ヲ記載シ第二十三條及第三十四條ノ記載ヲ抹消スヘシ

前項ニ掲ケタルモノカ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ其ノモノカ滅失シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタル旨ヲ遲滞ナク管轄登記所ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

前三項ノ規定ハ工場財團ニ屬シタル工業所有權カ消滅シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタル場合ニ之ヲ準用ス但シ通知ハ之ヲ特許局ニ爲スヘシ

第二類 工場抵當法

第四十五條 工場財團ノ差押、假差押又ハ假處分ハ工場所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

民事訴訟法第二十六條ノ規定ハ工場カ數箇ノ區裁判所ノ管轄地ニ跨カリ又ハ工場財團ヲ組成スル數箇ノ工場カ數箇ノ區裁判所ノ管轄地内ニ在ル場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 裁判所ハ抵當權者ノ申立ニ因リ工場財團ヲ箇箇ノモノトシテ競賣又ハ入札ニ付スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

第四十七條 民事訴訟法第七百條又ハ競賣法第三十三條ノ規定ニ依リ登記ノ囑託ヲ爲スヘキ場合ニ於テ工場財團ノ抵當權カ競落ニ因リ消滅シタルトキハ裁判所ハ同時ニ工場財團ニ屬シタル土地、建物、船舶又ハ工業所有權ニ付第二十三條及第三十四條ノ記載ノ抹消及競落人ノ取得シタル權利ノ登記又ハ登録ヲ管轄登記所又ハ特許局ニ囑託スヘシ
第四十八條 工場財團登記簿ハ所有權保存ノ登記カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ又

ハ抵當權ノ登記カ全部抹消セラレタルトキハ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條 工場ノ所有者又ハ法律ニ依リ之ニ代リテ一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル者カ讓渡又ハ質入ノ目的ヲ以テ第二條ノ規定ニ依リ抵當權ノ目的タル物ヲ第三者ニ引渡シ又ハ引渡サシメタルトキハ十五日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス

前項ニ規定シタル行爲ト雖刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ從フ

第五十條 工場ノ所有者カ抵當權ノ目的ト爲シタル物又ハ抵當權ノ目的ト爲シタル工場財團ニ屬スル物ヲ毀損シ又ハ毀損セシメタルトキハ刑法第四百十七條乃至第四百二十三條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（三十八年勅令第百八十七號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行セラル）

第二類 工場抵當法

●工場抵當登記取扱手續

(明治三十八年六月二十六日
司法省令第十八號)

工場抵當登記取扱手續左ノ通相定ム

工場抵當登記取扱手續

第一條 工場抵當法ニ依ル登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除ケ外不動
産登記法施行細則ノ規定ニ依ル

第二條 工場財團登記簿ハ附録第一號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製ス
ヘシ

第三條 工場財團共同人名簿ハ附録第二號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調
製スヘシ

第四條 工場財團所有權保存ノ登記ヲ申請スルニハ工場抵當法第二十二條ニ掲
ケタル書面ノ外工場ノ圖面ヲ提出スヘシ

第五條 各別ノ所有者ニ屬スル數箇ノ工場ニ付工場財團所有權保存ノ登記ヲ申

請スル場合ニ於テハ工場抵當法第二十一條第一號乃至第三號ノ事項ニ付各所
有者ノ氏名又ハ名稱ヲ記載スヘシ

第六條 工場財團目錄ノ記載ハ後九條ノ規定ニ從フヘシ

第七條 土地ニ付テハ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、地目、段別又ハ坪數及用
方ヲ記載スヘシ

第八條 工作物ニ付テハ其ノ種類、構造及建坪又ハ延長ヲ記載シ且其ノ所在ノ
土地ヲ表示スヘシ

第九條 機械、器具、電柱、電線、配置諸管、軌條其ノ他ノ附屬物ニ付テハ其
ノ種類、構造、箇數又ハ延長ヲ記載シ若製作者ノ氏名又ハ名稱、製造ノ年月、
記號、番號其ノ他同種類ノ他ノ物ト區別スルニ足ルヘキ特質アルトキハ其ノ
特質ヲモ記載スヘシ

數箇ノ土地又ハ工作物ノ一ニ附屬スル物ニ付テハ其ノ附屬スル土地又ハ工作
物ヲ表示スヘシ

第二類 工場抵當登記取扱手續

輕微ナル附屬物ノ記載ハ概括シテ之ヲ爲スコトヲ得

六百四

第十條 登記シタル船舶ニ付テハ船舶登記規則第十六條ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

第十一條 地上權ニ付テハ第七條ニ掲ケタル事項ノ外設定ノ目的及範圍、存續期間、地代及其ノ支拂時期、設定ノ年月日並ニ所有者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十二條 賃借權ニ付テハ第七條、第八條、第九條又ハ第十條ニ掲ケタル事項ノ外存續期間、借賃及其ノ支拂時期、設定ノ年月日並ニ賃貸入ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十三條 工場抵當法第十六條第二項ニ依リ抵當權ノ目的タルヘキ地役權ニ付テハ承役地ノ表示、設定ノ目的及範圍、設定ノ年月日並ニ所有者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十四條 工業所有權ニ付テハ其ノ權利ノ種類、名稱、番號及原簿登錄ノ年月日

ヲ記載スヘシ

工業所有權ニ關スル實施權ニ付テハ實施權ノ範圍並ニ本權ノ種類、名稱、番號、原簿登錄ノ年月日及其ノ權利者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十五條 數箇ノ工場ニ付工場財團ヲ設ケル場合ニ於テハ各工場ニ屬スルモノヲ區分シテ記載スヘシ

數箇ノ工場カ各別ノ所有者ニ屬スル場合ニ於テハ各所有者ニ屬スルモノヲ區分シテ記載スヘシ

第十六條 工場財團目錄ヲ作成スルニハ美濃判大ノ紙料ヲ用ユヘシ

第十七條 工場財團目錄ニハ其ノ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但シ申請人カ多數ナルトキハ其ノ一人ノ契印ヲ以テ足ル

第十八條 工場ノ圖面ニハ工場ニ屬スル土地及工作物ノ方位、形狀及間尺並ニ重要ナル附屬物ノ配置ヲ記載シ申請人之ニ署名、捺印スヘシ

地上權ノ目的タル土地、賃借權ノ目的タル土地及工作物並ニ承役地ニ付テハ

第二類 工場抵當登記取扱手續

六百五

各其ノ方位、形狀及間尺ヲ記載スヘシ
工場ノ一部ヲ以テ工場財團ヲ設クル場合ニ於テハ財團ニ屬スル部分ト之ニ屬セサル部分トヲ區分スヘシ

第十九條 登記官吏カ工場抵當法第二十條第三項ニ依リ表示欄ニ工場財團ノ表示ヲ爲スニハ工場ノ名稱、位置、主タル營業所及營業ノ種類ヲ記載スヘシ

第五條ノ場合ニ於テハ所有者ノ氏名又ハ名稱ヲモ記載スヘシ

第二十條 登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ工場財團目錄及工場ノ圖面ニ申請書受付ノ年月日、受付番號及登記番號ヲ記載スヘシ

工場抵當法第三十九條ニ依リ提出シタル目錄ニハ申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スルヲ以テ足ル

第二十一條 登記官吏カ工場抵當法第二十三條第二項、第四項、第二十六條、第二十八條第二項、第三十四條第二項、第三十七條第二項、第四十三條、第四十四條第二項、第四項及第四十八條第二項ニ依リ通知ヲ爲ストキハ其ノ要

旨、通知ヲ受クル者及通知ヲ發スル年月日ヲ不動産登記法施行細則第十四條

第五號ノ通知簿ニ記入シ通知書ト契印スヘシ

第二十二條 登記官吏カ工場抵當法第二十三條第二項、第二十八條第二項、第

三十四條第二項、第三十七條第二項、第四十三條、第四十四條第二項及第四

十八條第二項ニ依リ通知ヲ受ケタルトキハ受付帳ニ通知事項ノ要旨、通知ヲ

爲シタル登記所ノ名稱、受付ノ年月日及受付番號ヲ記載シ通知書ニ受付ノ年

月日及受付番號ヲ記載スヘシ但シ通知事項ノ要旨ハ登記ノ目的欄ニ、通知ヲ

爲シタル登記所ノ名稱ハ申請人ノ氏名欄ニ之ヲ記載スヘシ

第二十三條 工場財團目錄及工場ノ圖面ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ

第二十四條 工場抵當法第三條ノ場合ニ於テハ土地又ハ建物カ同法第一條ノ工

場ニ屬スルモノナルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ提出スヘシ

第二十五條 前條ノ場合ニ於テ土地又ハ建物ノ登記用紙中相當區事項欄ニ其登

記ヲ爲ストキハ工場抵當法第三條ニ依リテ目錄ノ提出アリタルコトヲ記載ス

第二類 工場抵當登記取扱手續

第二十六條 第九條、第十六條、第十七條、第二十條及第二十三條ノ規定ハ工場抵當法第三條ノ目錄ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ工場抵當法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附錄雜形略ス)

●特許、意匠、商標

●特許法 (明治三十二年三月一日) (法律第三十六號)

帝國議會ノ協贊ヲ經タル特許法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

特許法

第一條 工業上ノ物品及方法ニ關シ最先ノ發明ヲ爲シタル者若ハ其ノ承繼人ハ此ノ法律ニ依リ特許ヲ受ケルコトヲ得

物品ノ發明ニ係ル特許ハ特許ヲ受ケタル者ニ限り其ノ發明ノ物品ヲ製作、使用、販賣若ハ擴布スルノ權利ヲ有セシム
方法ノ發明ニ係ル特許ハ特許ヲ受ケタル者ニ限り之ヲ使用若ハ擴布スルノ權利ヲ有セシム但其ノ特許ノ效力ハ同一方法ニ依リ製作セラレタル物品ニ及ブモノトス

第二條 左ニ掲グル發明ハ特許ヲ受ケルコトヲ得ス

- 一 飲食物、嗜好物
- 二 醫藥又ハ其ノ調合法
- 三 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ
- 四 特許出願前公ニ知ラレ又ハ公ニ用非ラレタルモノ但シ試験ノ爲ニ二年以内公ニ知ラレタルモノハ此ノ限ニアラス

第三條 特許ノ年限ハ十五年トシ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第四條 特許ハ制限ヲ付シ若ハ付セスシテ讓渡シ、共有ト爲シ又ハ質權ノ目的

第二類 特許法

ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ特許局ニ請求シ其ノ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五條 特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ有スルコトヲ得ス但シ相續ニ因リ之ヲ取得シ又ハ在職前ヨリ之ヲ有スルトキハ此ノ限ニアラス

第六條 特許ニ關シ出願者ハ請求ヲ爲サントスル者又ハ特許證主ニシテ帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ帝國內ニ住居ヲ有スル者ニ就キ代理人ヲ定ムヘシ

前項代理人ハ此ノ法律及之ニ基キテ發スル命令ノ定ムル所ニ依リ特許局ニ對シテ爲スヘキ手續又ハ特許ニ關スル民事訴訟及告訴ニ付本人ヲ代表スルモノトス

第七條 特許局長ハ特許ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得

第八條 特許ニ關スル代理ヲ常業トスル者ハ特許局長ニ願出登録ヲ受ケヘシ

代理業者ノ登録ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 前條ニ依リ登録ヲ受ケタル代理業者ニシテ其ノ業務ニ關シ犯罪又ハ不正ノ行爲アリタルトキハ特許局長ハ其ノ代理業ヲ停止又ハ禁止スルコトヲ得

第十條 特許ニ關シ出願又ハ請求ヲ爲シタル者此ノ法律若ハ之ニ基キテ發スル命令ノ定ムル期間内又ハ此ノ法律若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ特許局長若ハ審判長ノ定ムル期間内ニ成規又ハ指定ノ手續ヲ爲ササルトキハ其ノ出願又ハ請求ハ無効トス

第十一條 特許ヲ受ケントスル者ハ一發明毎ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ特許局長ニ出願スヘシ

特許局長ハ出願者ニ對シ必要ト認ムルトキハ難形若ハ見本ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第二類 特許法

第十二條 特許ヲ出願シタルトキハ特許局審査官其ノ發明ヲ審査ス

第十三條 審査官ニ於テ特許ヲ與フヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ登錄シ特許證ヲ下付ス

特許證ニハ特許局長之ニ署名シ明細書及必要ノ圖面ヲ添付ス

第十四條 工業所有權保護同盟條約國ニ於テ發明ノ特許ヲ出願シタル者條約ニ定メタル期間内ニ同一發明ニ付特許ヲ出願シタルトキハ其ノ出願ハ最初出願ノ日ニ於テ之ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス(三十五年法律第二號ヲ以テ條中改正)

第十五條 政府若ハ府縣ノ開設シタル博覽會若ハ共進會ニ出品スル者ニシテ他日其ノ物品ニ付發明ノ特許ヲ出願セントスルトキハ出品前ニ於テ其ノ旨ヲ特許局長ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ博覽會若ハ共進會ニ於テ其ノ物品ヲ受領セシ日ヨリ六箇月以内ニ特許ヲ出願シタル者ニ限り最初届出ノ日ニ於テ其ノ出願ヲ爲シタル

ト同一ノ效力ヲ有ス

工業所有權保護同盟條約國ニ於テ萬國博覽會ノ開設アルニ當リ其ノ國ニ於テ

出品ニ對シ與ヘタル特許出願ノ期間ハ帝國内ニ於テモ有效トス

第十六條 公益ノ爲普及ヲ要スルモノ又ハ軍事上必要ナルモノ若ハ祕密ヲ要ス

ルモノニ係ル發明ニシテ特許局長ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ主務官廳ヨ

リ請求アリタルトキハ特許局長ハ特許ニ制限ヲ付シ若ハ特許ヲ與ヘス又ハ既

ニ與ヘタル特許ヲ制限シ若ハ之ヲ取消スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ政府ハ相當ノ報酬ヲ特許出願者又ハ特許證主ニ與フヘキモ

ノトス

第十七條 他人ノ特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ニ付特許ヲ出願シタル者特

許ノ査定ヲ得タルトキハ原特許證主ニ協議シ其ノ發明ヲ使用スルノ承諾ヲ受

クヘシ

發明者前項ノ承諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ特許局長ニ申告

第二類 特許法

スヘシ特許局長ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ其ノ利用發明ニ對シ特許ヲ與フルコトヲ得但シ原特許證主ニ對シ特許局長ノ相當ト認ムル報酬ヲ仕拂フニ非サレハ其ノ特許ヲ實施スルコトヲ得ス

第十八條 前二條ノ報酬額ニ對シ不服アル者ハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ第十六條ノ場合ニ於テハ之カ爲處分ヲ停止セス

第十九條 特許證主ハ自己ノ特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ニ對シ追加特許ヲ受ケルコトヲ得

追加特許ハ原特許ニ從ヒ移轉若ハ消滅スルモノトス
第二十條 特許ヲ受ケタル發明ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ其ノ特許ヲ無効トス

- 一 第一條及第二條ニ違反シタルモノ
- 二 發明ノ實施ニ必要ナル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セザリシモノ
- 三 發明ノ實施ニ必要ナラサル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セシモノ

第二十一條 審査官ニ於テ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルトキハ特許局長ハ其ノ査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第二十二條 審査官ニ於テ特許出願ノ發明カ他人ノ特許出願中ノ發明又ハ他人ノ特許發明ト抵觸スト査定シタルトキハ特許局長ハ其ノ査定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第二十三條 前二條ノ査定ニ不服アル者ハ査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ特許局長ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得

再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局長ハ前査定ニ干與セサル審査官ヲシテ更ニ之ヲ審査セシムヘシ

審査官其ノ不服理由ヲ不當ト査定シタルトキハ特許局長ハ其ノ査定書ヲ不服者ニ送付スヘシ

第二十四條 發明抵觸ノ査定確定シタルトキハ特許局長ハ關係人ヨリ發明ニ關スル始末書ヲ徴シ審査官ヲシテ發明完成ノ前後ヲ審査セシメ其ノ査定書ヲ關

第二類 特許法

係人ニ送付スヘシ

六百十六

第二十五條 前條ニ依リ既ニ與ヘタル特許ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與フルトキハ其ノ特許年限ハ前特許登錄ノ日ヨリ起算ス

第二十六條 特許證主其ノ明細書若ハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ改訂明細書若ハ圖面ヲ添ヘ特許證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得一箇ノ特許證ヲ分割シテ二箇以上ト爲スノ必要アルコトヲ發見シタルトキ亦同シ但シ發明ノ要部ヲ變更スルモノハ此ノ限ニアラス

第二十七條 前條ノ出願アリタルトキハ審査官之ヲ審査ス前項ノ場合ニ於テ審査官ノ査定ニ不服アル者ハ第二十三條ニ依リ再審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 第二十三條及第二十七條ノ再査定ニ不服アル者ハ査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條ノ査定ニ不服アル者亦前項ニ同シ

第二十九條 二箇以上ノ特許發明互ニ撞著シ又ハ特許發明ト特許ヲ受ケサル物品若ハ方法ト撞著スルコトヲ發見シタルトキハ利害關係人ハ權利ヲ確認スル爲特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第三十條 特許ヲ受ケタル發明第二十條ニ該當スルコトヲ發見シタル者ハ其ノ特許ヲ無効トスル爲特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第三十一條 特許局ノ審査、審判及報酬額ノ決定ニ關シ必要アルトキハ特許局ハ當事者ノ申立ニ因リ證據調ヲ爲シ又ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ證據調ヲ囑託スルコトヲ得

前項證據調ニ關シテハ民事訴訟法第二編第一章第五節乃至第十一節ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 特許局ニ於テ審判スヘキ事件ハ審判官三人若ハ五人ヲ以テ之ヲ審判ス其ノ三人若ハ五人中ノ一人ヲ審判長トス

審判ノ審決ニハ理由ヲ付スルコトヲ要ス

第二類 特許法

六百十七

第三十三條 審判ハ正副二通ノ審判請求書ヲ以テ之ヲ請求スヘシ審判請求書ニハ理由ヲ付スルコトヲ要ス

特許局ニ於テ審判請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ被請求人ニ送付シ相當ノ期間ヲ指定シテ正副二通ノ答辯書ヲ差出サシムヘシ

特許局ハ必要ト認ムル場合ニ於テ期限ヲ付シテ更ニ請求人、被請求人ヨリ辯駁書、答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

審判長ハ職權又ハ當事者雙方ノ申立ニ因リ口頭審判ヲ爲スコトヲ得

口頭審判ハ公開スルモノトス

第三十四條 請求人若ハ被請求人成規又ハ指定ノ期間内ニ答辯書若ハ辯駁書ヲ差出ササルトキ又ハ辯論期日ニ出頭セサルトキハ審判長ハ相手方ノ意見ヲ聽キ審判ヲ終結スルコトヲ得

第三十五條 第二十八條第二項第二十九條及第三十條ノ請求ニ因ル審決ニ對シ不服アル者ハ其ノ審決ヲ法律ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルコトヲ理由ト

スルトキニ限り審決書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ訴及裁判ニ付テハ民事訴訟ノ上告及其ノ裁判ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十六條 大審院ニ於テ出訴ノ理由アリト認ムルトキハ原審決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲事件ヲ特許局ニ差戻スヘシ

大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付表シタル意見ハ其ノ事件ニ關シ特許局ヲ羈束スルモノトス

第三十七條 第二十八條第二項第二十九條及第三十條ノ請求ニ因ル審判ニ關スル費用ノ負擔及其ノ費用額ハ審判長之ヲ決定ス

大審院ニ於テ費用ノ負擔ヲ言渡シタル場合ニ於ケル費用額ニ付テモ亦同シ
前二項ノ費用ニ關シテハ民事訴訟法第七十二條乃至第八十二條第八十六條及民事訴訟費用法ヲ準用ス

第三十八條 特許ヲ受ケタル發明ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ特

第二類 特許法

許局長ニ於テ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

一 特許證主正當ノ事故ナクシテ特許證ノ日付ヨリ三年ヲ經ルモ帝國内ニ於テ其ノ發明ヲ實施公行セサル場合又ハ三年以上其ノ實施公行ヲ中止シタル場合ニ於テ第三者ヨリ相當ノ條件ヲ付シテ其ノ讓受若ハ使用ヲ請求スルモ之ヲ拒絕シタルトキ

二 特許證主特許料納付期限後六十日ヲ經過スルモ仍其ノ納付ヲ怠リタルトキ

三 特許證主正當ノ事故ナクシテ六箇月以上第六條ノ代理人ヲ置カザルトキ

第三十九條 特許證主ハ特許料トシテ各特許ニ付毎年金十圓ヲ納ムヘシ前項特許料ハ三年毎ニ金五圓ヲ増スモノトス
特許證主追加特許ヲ受ケタルトキハ追加特許料トシテ一時ニ金二十圓ヲ納ムヘシ

第四十條 特許料ハ毎年一年分ヲ特許證ノ日付ニ應當スル日ニ於テ前納スヘシ第一年ニ係ルモノ及追加特許料ハ特許査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ

納ムヘシ
前納セシ特許料ハ之ヲ還付セス但シ一時ニ二年分以上ノ特許料ヲ前納シタル場合ニ於テハ未タ其ノ納付期限ニ至ラサルモノニ限り之ヲ還付ス

第四十二條 特許證主ハ其ノ特許品ニ特許ノ標記ヲ付スヘシ

第四十二條 特許局ハ特許公報ヲ發行シテ特許發明ノ明細書、圖面特許證ノ改訂、特許ノ異動其ノ他特許ニ關スル必要ノ事項ヲ公示スヘシ但シ秘密ヲ要スルモノハ此ノ限ニアラス

第四十三條 特許ニ關スル書類ノ謄本、圖面ノ調製又ハ特許原簿ノ一覽ヲ要スル者ハ特許局ニ請求スルコトヲ得但シ秘密ヲ要スルモノハ此ノ限ニアラス

第四十四條 證人又ハ鑑定人ニシテ特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ對シ偽證又ハ詐偽ノ鑑定ヲ爲シタルトキハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以

第二類 特許法

上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ於テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定ヲ爲サシメタル者ハ罰前項ニ同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ查定、審決若ハ決定ニ至ラサル前特許局若ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第四十五條 他人ノ特許品ヲ偽造シタル者又ハ情ヲ知りテ偽造特許品ヲ使用シ若ハ販賣シタル者又ハ他人ノ特許方法ヲ竊用シタル者又ハ情ヲ知り其ノ竊用シテ製造シタル物品ヲ使用若ハ販賣シタル者ハ十五日以上三年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ特許ヲ侵害スヘキ物品ナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シタル者又ハ情ヲ知りテ其ノ輸入シタル物品ヲ使用シ若ハ販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第四十六條 前條ノ場合ニ於テ沒收シタル物件ハ之ヲ特許證主ニ給付ス

第四十七條 詐偽ノ所爲ヲ以テ特許ヲ受ケタル者又ハ特許ヲ受ケサル物品ニ特

許標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知り其ノ物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許ヲ受ケサル物品ヲ販賣スル爲廣告、看板、引札等ニ於テ特許品タルニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ

第四十八條 第四十五條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第四十九條 特許證主特許標記ヲ付スルコトヲ怠リタルトキハ其ノ特許品タルコトヲ知りテ其ノ權利ヲ侵害シタル者ニ對シテノミ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第五十條 特許證主其ノ特許品ノ要部ヲ分離シテ販賣シタルトキハ其ノ販賣シタル部分ニ對シ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第五十一條 此ノ法律ニ定メタル書類ノ送付ハ書留郵便又ハ特許局ノ使丁ヲ以テ之ヲ爲ス此場合ニ於テ郵便配達人及特許局ノ使丁ハ民事訴訟法ノ送達吏ト

第二類 特許法

準視ス

附則

第五十二條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十三條 明治二十一年勅令第八十四號特許條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

專賣特許條例及特許條例ニ依テ受ケタル專賣特許若ハ特許ハ其ノ年限間此ノ法律ニ依テ受ケタル特許ト同一ノ效アルモノトス

特許ニ關スル出願又ハ請求ニシテ此ノ法律施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ此ノ法律ニ依リタル出願又ハ請求ト看做シ處分スヘシ

●特許法施行細則

(明治三十二年六月二十日) 農商務省令第十三號

特許法施行細則左ノ通相定ム

特許法施行細則

第一章 總則

第一條 特許ニ關スル出願、請求、届出等ヲ爲ス者ハ一件毎ニ書面一通ヲ作り住所及ヒ差出ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名捺印シテ差出スヘシ但書類ノ謄本、圖面ノ調製、特許原簿其他ノ書類、雛形又ハ見本閱覽ノ請求ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得(三十八年農商務省令第一號ヲ以テ全條改正)

關係人又ハ相手方アル場合ニ於テハ其ノ員數ニ應スル副本ヲ添付スヘシ

第二條 本則ニ書式ノ定アル場合ニ在リテハ書面ハ其書式ニ依リテ之ヲ作ルヘシ

第三條 書面ハ日本語ヲ以テ之ヲ認ムヘシ

委任狀、國籍證明書等ニシテ外國語ヲ以テ認メタルモノニハ其譯文ヲ添附スヘシ

第四條 特許出願後、特許ノ改訂若クハ分割ノ出願後又ハ特許後其出願若ハ特許ニ關シ書面ヲ差出ストキハ之ニ其願書番號若クハ特許番號及ヒ發明ノ名稱ヲ記載シ審判請求中ノ事件ニ關シ書面ヲ差出ストキハ之ニ審判番號ヲ記載ス

第二類 特許法施行細則

ヘシ(同上)

第五條 (同上ヲ以テ削除)

第六條 書留郵便ヲ以テ特許ニ關スル願書、請求書、特許法第十五條第一項ノ規定ニ依ル届書及ヒ特許法又ハ本則ノ規定ニ依リ差出期間ヲ定メタル書類ヲ特許局ニ差出シタルトキハ其差出日時ハ發送郵便局ヨリ交付シタル書留郵便物受取證ニ記載シタル日時ニ依リ之ヲ定ム(同上ヲ以テ改正)

第七條 (同上ヲ以テ削除)

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル書類、雛形又ハ見本ハ之ヲ受理セス(同上ヲ以テ全條改正)

- 一 特許法又ハ本則ニ定メタル方式ニ違背シタルモノ
- 二 登録税又ハ手数料ヲ納付セサルモノ
- 三 特許法若ハ本則ニ定メタル期間又ハ特許法若ハ本則ノ規定ニ依リ特許局長又ハ審判長ノ定メタル期日若クハ期間ヲ過キタルモノ

特許局ニ於テ受理シタル書類、雛形又ハ見本カ前項第一號若ハ第二號ニ該當スルトキ又ハ不明瞭若ハ不完備ナルトキハ特許局長又ハ審判長ハ其訂正、補充又ハ改造ヲ命スルコトヲ得但出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ特許願ヲ追加特許願又ハ利用發明特許願ニ追加特許願又ハ利用發明特許願ヲ特許願ニ、追加特許願ヲ利用發明特許願ニ、利用發明特許願ヲ追加特許願ニ變更シ又ハ書損及ヒ之ニ類スル著シキ誤謬ヲ訂正若ハ補充スルハ出願、請求又ハ届出等ノ要旨ヲ變更スルモノト看做サス
書類ノ書損及ヒ之ニ類スル著シキ誤謬アルトキハ特許局長又ハ審判長ハ適宜之ヲ訂正又ハ補充スルコトヲ得

第九條 特許ニ關スル出願、請求、届出等ヲ爲シタル者ハ其差出シタル書類、雛形又ハ見本ヲ訂正、補充又ハ改造スルコトヲ得但出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノ又ハ審査若ハ審判ノ繫屬中ニ在ラサルモノハ此限ニ在ラス(同上)

第二類 特許法施行細則

審査中特許願ヲ追加特許願又ハ利用發明特許願ニ、追加特許願又ハ利用發明特許願ヲ特許願ニ、追加特許願ヲ利用發明特許願ニ、利用發明特許願ヲ追加特許願ニ變更シ又ハ明細書ニ記載シタル事項ノ範圍内ニ於テ特許ノ請求範圍ヲ増減變更シ又ハ審査若ハ審判ノ繫屬中書損及ヒ之ニ類スル著シキ誤謬ヲ訂正若クハ補充スルハ出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノト看做サス

第十條 外國人又ハ外國法人ニシテ特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキハ外國人ニ在リテハ國籍證明書、外國法人ニ在リテハ國籍及ヒ法人タルコトノ證明書ヲ差出スヘシ但帝國内又ハ萬國工業所有權保護同盟條約國內ニ住所又ハ現實且眞誠ナル工業的若ハ商業的ノ營業所ヲ有スルコトヲ證明スルハ者國籍證明書ヲ差出スコトヲ要セス(同上)

第十條ノ二 萬國工業所有權保護同盟條約國又ハ帝國ト發明ニ付キ相互保護ヲ約セシ國以外ノ國ノ臣民、人民又ハ法人ニシテ特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキハ帝國内又ハ萬國工業所有權保護同盟條約國內ニ住所又ハ

現實且眞誠ナル工業的若クハ商業的ノ營業所ヲ有スルコトノ證明書ヲ差出スヘシ(同上ヲ以テ追加)

第十條ノ三 同時ニ數箇ノ出願、請求其他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ前二條ニ依リ差出ス證明書ハ一通ヲ差出シ之ヲ添付セサル書面ニハ其旨ヲ附記スルコトヲ得(同上)

第十條ノ四 前三條ノ場合ニ於テ他ノ事件ニ付キ特許局ニ對シ既ニ證明書ヲ差出シタルモノナルトキ其他特許局長ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ證明書ノ差出ヲ免除スルコトヲ得(同上)

第十一條 發明者ノ承繼人ヨリ其發明ノ特許以前特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキハ其承繼人タルコトヲ證明スル書面ヲ差出スヘシ但其事由ヲ附記シ被承繼人ト連署スルトキハ此限ニ在ラス(同上ヲ以テ改正)

第十二條 代理人カ特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキハ其代理權ヲ證明スル書面ヲ差出スヘシ但法人ノ代表者其法人ノ名義ヲ以テスルトキハ

第二類 特許法施行細則